116

司法省總務局文書課

司法省文庫
和書門
雜書部
三六六五號
函
架
冊
共一八

譯書雜類

第二集

治十七年十一月

翻譯課

XB1
S
2

譯書雜類第三集（泉佛律編集一二）

○目次

一遊獵規則
一鳥獸獵規則
一魚獵規則
一商業會社法
一商業監察人

XB100
S 3
2 b

宮内省図書寮

遊獵規則見込

遊獵規則ニ付今度見込書差出ノ命ヲ蒙リタ
ニ外國人遊獵規則ハ唯ニ外國人耳ニ
免行ス可クメ日本人ニハ無用ス可キ規則
ニ非ス ト思ハル内テ日本人ニ施行スル規則
ハ爰ニ論セスシテ即チ左ニ愚案ヲ呈ス

第一條 軍銃ヲ用ヒテ遊獵スルヲ禁スルハ如
何ナル利害得失アリヤ唯ニ「シヤスポー」軍銃ノ名
ニ鉛彈ヲ込ミ用ユルル獵銃ヲ以テ遊獵スル
ヨリ鳥獸ヲ多ク害スルト云フニモ有ラザル

可シ若シ此ノ制禁ヲ日本人ニスラル時ハ
當理トス可シ何トナレハ兵士及ヒ其ノ他軍
銃ヲ所持スルノ權ヲ有スル者ニハ公務ノ外
之レヲ使用スルヲ禁スル必要タレハナリ
然レ外國人ニハ之レヲ適理ナリトス可カラ
ス何トナレハ軍用獵用トモニ使用ナル精良
ノ銃器ヲ發明スルアル故ナリ○外國人ニ
之レヲ使用スルヲ禁ス可キヤ又後々其ノ
規則ヲ改制ス可キヤ又タ規則ヲ改メスシテ
外國人ヲシテ犯サシム可キヤ

○此ノ條ニハ唯ニ銃獵ノ事丹ニ見エ然レハ
犬或ハ鷹等ヲ以テ獵スルノ制禁モ包含ス
ルヤ右等ノ制禁ノ時限ナキハ人ノ能ク知ル
所ナレハ我輩ニ於テモナキヲト思フナリ

第一條ノ見込條案

第一條　遊獵ハ銃獵犬或ハ鷹ヲ以テ鳥獸ノ狩
スルヲ云然テ他ノ獵法ハ嚴禁ス若シ之レヲ
犯ス者ハ三圓二十錢ヨリ二十圓迄ノ罰金ヲ
科ス可シ

第二條　（日本地方官ト云語ヲ以テ其節ト云語

ニ改ムル可シ

第三條 外國公使ニ於テハ已レノ國民ヲシテ直ニ願ヲ日本地方官ニ出シ遊獵鑑札ヲ受ケシムル一ツ肯ヒザル可シ殊ニ從來ノ條約通リノ帝國ニテハ外國人ハ日本ノ何レノ公ケノ事業ニ就テモ管係ス可カラサル一ツ注意ス可ク又タ内縣ヨリハ免許鑑札ヲ渡サシム可カラス何トナレバ府縣ニ裁判スル一ツ及ヒ免許鑑札ヲ渡ス一ニ付テノ願及ヒ渡ス可キヤ否トヲ熟知スルノ權ヲ許スニ似タリ然ルニ條約ノ原意ニ因レハ其領事ヨリ耳ヒ此ノ願ヲ為スノ權アリ

○此條ノ罰金ハ多クハ半高ニ減スルニハ未タ少シトセス是レ鑑札ヲ帶往セサルハ全ク失意ノ輕易ナルモノニシテ那タ人ニ害スル所ナキ故也

第三條ノ見込條案

第三條 総テ外國人ノ遊獵鑑札ヲ受ケント欲スル者ハ願ヲ其ノ領事ニ為ス可シ其ノ身分等級調ノ上若シ本人此ノ法律ノ規則及ヒ其

ノ國ノ獵律ノ承諾スルトキハ領事又面等檢閲
シテ其ノ願書ノ地方官ニ差出スヘシ
○免許鑑札ハ領事ハ證印シタル本人ノ願書
ノ受取タル時ヨリ四十八時間ニ渡タサルヘカ
ラス
○免許ノ得タル者ハ其ノ鑑札ヲ帶往セスシテ
遊獵スルヲ得スト雖トモ之レヲ犯ス者ハ八十錢
ヨリ五圓マテノ罰金ニ處セラルヘシ
第四條（意存無シ）
第五條 此ノ條中一期限ノミ効アリトハ佛國

ノ法トハ表裏セリ譬ヘハ若シ三月十五日ニ
一箇ノ獵人日本ニ着シ殘リ十五日間遊獵セ
ントスルトキハ一鑑札ヲ請ヒ又タ其ノ人十
一月二十五日ニ出帆スルニ付前二ヶ月遊獵
セントスルトキハ再ヒ鑑札ヲ申請クルヲ得ス
然レハ半期限モ遊獵ヲ爲サスシテ再度鑑札
料ヲ拂フヿハ実地ニ施行シ難カラスヘシ
第五條ノ見込案
第五條 免許鑑札ハ一人一已ノ用トナス可ク
ソ貸借或ハ賣買スルヲ許サス且之レヲ渡シ

タル日ヨリ一ヶ年ノ間効アリトハ若シ之レヲ犯ハ者ハ第一條ノ罰金ノ科ス可シ

○獵ノ閉開ハ毎歳各縣ニ於テ地方官ヨリ期限ヲ定ム可シ閉獵ノ時間ハ六ヶ月ヨリ少ナカル可カラス

（第五條）総シテ日本國ノ張大ナル凡ソ緯度三十一度ヨリ四十五度マテ凡ソ八百里ニシテ南北氣候ノ異変大ナリ因テ鳥類等同時ニ巣ヲ造ルアリ渡リ或ハ歸ルアリ然レハ獵ノ期限ハ一ト通ニ定ム可カラス地方ノ景況ニ依テ期限ヲ定ムルヲ要ス可シ又殊ニ長崎ヨリ函館ニテハ常ニ秋収ノ時同カラス

第六條（論無シ）

第七條（同上）

第八條　左ノ輩ニハ領事ヨリ免許鑑札ヲ渡ス可カラス

第一ニ　十五歳未満ノ者

第二ニ　白痴瘋癲等人事ヲ辨セサル者

第三ニ　此律ニ因テ定メタル犯罪ノ何レリ問ハス違犯シタル罪ノ言渡ニ不服シタル者

（意味ハ先ノ見之ニ変ル1ナシ）

第四ニ其ノ國ノ法律ニ因テ權利ヲ失スルノ罰ヲ受クル者

第九條　第十條）此両條ヲ見ルニ此ノ遊獵ハ説理上ニハ免許セラレ実際上ニテハ何レノ場所ト雖モ制禁セラルヽニ似タリ

○先ヅ開港場ニ於テハ人家ヲ離レ1六十間ノ場所ヲ見當ル1甚タ稀ナル可シ又水陸田野林寺ニテ制禁セラルヽ内ハ遊獵スル1弥ヽ難シ元来何レノ樹林ニモ所有主アリ其ノ他野林中最モ屢々社寺寺見当ル1タリ社寺ハ即チ人家ニ同シ○其ノ他野鳥ヲ見当ル所ナシ何トナレハ殆ント常ニ人家ニ迫キ場所ニ於テ鳩鶏等最見当ルヽヨリ若シ偶然何レノ支障モ無キ場所ニ至ルトモ多分銃猟制禁ノ札掲ケアル可シ

○各開港場ニ居住スル僧二十名計リノ外國ヘノ猟スル者ニ對シテ如此キ十全ノ預防法ヲ必要ス可キヤ各開港場ニ凡ソ二十名許リモアラン然レ共毎日遊猟スル者稀ナル可シ

又タ遊獵者ニ少シク獎勵セレル所アルカ
又ハ田畑ノ所害トナル鳥類ヲ狩リテ農事ヲ
助クルニ非レハ右人員ニ平均スルニ数十所
四方ニテ僅カ三羽ツヽニ当ル可カラス
○佛國及ヒ一般政例ニ於テ凡ノ獵スル者ハ
己レノ所有地内ニ非レハ獵スルノ權ナシ又
他人ノ所有地ト雖モ其所有主ヨリ免許ヲ得タル上
ハ其ノ地ニ於テ獵權ヲ得可シ然レテ此ノ免
許ヲ得タル者ハ其ノ地内一圍及ヒ人家アル
場所ト雖モ獵スルヲ得ルナリ然ルニ此ノ

法ハ日本國ニハ施行ス可カラス何故ナレハ
外國人ハ未タ所有主トナルヲ得サル再ナ
ラス諸地ノ所有主ト結テ交際ヲ禁止セラル
ヽヲ以テナリ因テ佛國ノ法律ニ因リ尚ホ寛
裕ノ法ヲ加ヘ改定シテ可ナランカ
○官若シ農民ヲノ未タ嘗テ受ケサル所ノ告
難無カラシメハ必ス法律ノ目途ニ達スルヲ
得ンカ殊ニ外國人ノ事ニ就キ未タ嘗テ農
民ヨリ訴出タルヲナキニ非スヤ
第九條見込ノ條案

左ノ件々ヲ犯シタル者ハ十圓以上二十圓迄ノ罰金ヲ科スル可シ

第一　府ハ勿論市街或ハ村落中ニテ獵シタル者

第二　獵ヲ為ス時故心ニテ畑樹木草物及ヒ収穫物ニ害ヲ為シタル者

第三　人家及ヒ牆籬等ニ損害ヲ為シタル者

第四　不注意ニ因テ人ニ損傷ヲ加ヘシ者

但シ被犯人ヨリ請求シタル損失償金或ハ殺傷ノ場合ニ於テ其ノ國ノ法律ニ因テ言渡サレ可キ至重ノ罰ハ例外トスル

（第十條）ノ意右九條中ニ包含ス

（第十一條）鑑札ヲ檢査スルヲ乞ハレシ時何人ニ對シテモ拒ム事ナク指示スルノ規則ハ行ハル可カラス然レテ銃器ヲ携ユル者ヲ見テ免許鑑札ノ檢査ヲ受クル事ハ外國人決シテ肯ス可カラス第一日本政府ヨリ外國人ヲシテ之ニ循守セシムルヲ得ス

○若シ檢査スルヲ否マハ無鑑札ノ者ト見做

シ第二條ニ依テ處斷スト云條ハ第三條ノ意
ト違反スルナリ

免許鑑札ヲ現示スルヿヲ拒ム片ハ無鑑札
ノ者トセス唯タ鑑札ヲ帶往セスシテ遊獵シ
タル者トスヿ可シ

外國人ノ國語ニ通セサル者ト邏卒ノ佛英
独等ノ語ヲ知ラサル者トノ對話ナレハ如何
シテ外國人ノ鑑札ヲ示サヽルハ失念シテ帶
往セサルモノカ又ハ聽順セサルモノカヲ審
ニ知ルヿヲ得可キヤ

第十一條見込案

第十一條　総テ遊獵スル者ハ徽章服ヲ着ケタ
ル邏卒官吏又ハ免許鑑札ニ圖載シタル雛形
ノ賞牌等ヲ所持シタル遊獵監守人ヨリ初テ
鑑札ヲ示スヿ可キヿ請ハレタル片ハ直チニ所
持之免許鑑札ヲ現示スヿ可シ

但シ邏卒官吏又ハ監守人ヨリ前以テ賞牌
等ヲ遊獵者ニ示スヿ可シ

若シ鑑札ヲ示スヿヲ拒ム者ハ鑑札ヲ帶往セ
サル者トノ第三條ニ從ヒ罰スヿ可シ

第十二條　第九條ト此ノ條ヲ以テ比考スルニ若シ万一或ハ人不幸ニシテ僅カ十二ヶ月内ニ十度ヒ規則ヲ犯シタルトキハ三万七百二十圓ノ罰金及ヒ百二十八年ノ禁錮ニ處セラルヘシ然ルトキハ必然法律家ノ本意ヲ失スヘシ

第十二條見込案

第十二條　第一條第二條第三條第九條ニ因テ設定シタル罰ハ再犯ノ場合或ハ犯人姓名ヲ偽リ或ハ人ニ對シテ暴行又ハ脅迫シタルトキ陪セラルヘシ

罪ヲ犯シタル時ヨリ十二月内ニ此ノ諸規則ヲ犯ス者ヲ再犯トス

第十三條　此ノ條ニ因テ見レハ諸物ヲ取揚クルトハ領事裁判所ヨリ他ノ筋ヨリ言渡サルヽ如シ之レ行ハルヘカラス

第十三條見込案

第十三條　此ノ規則ノ何ノ罪ヲ問ハス犯シタルトキハ諸物ヲ取揚ルヿヲ其ノ犯人ノ國法ニ因テ別ニ言渡サルヘシ

第十五條　可ナリ

（第十六條）此ノ條ハ第九條ノ次ニ置クヲ可シ

同見之案

第十六條　夜間一遊獵スル者ハ何圓何錢ヨリ

〻〻迄ノ罰金ニ處スヲ可シ

○此ノ律ニ因テ罰シタル輕罪ノ内何レヲ犯

ス凡夜中ナル片ハ其ノ罰ヲ陪スヲ可シ

但シ日没ヨリ日出マテヲ夜ト云フ

（第十七條）ハ第十二條ニ包含スルヲ以テ廢シ

テ可ナラン

○我輩如斯ク見ル所ヲ差出スト雖モ罰金高ノ多

少ニハ注意ヲ加ヘス然レ第九條ノ罰金ハ殊

ニ莫大ナリ○又タ禁錮ノ一件ハ原ヨリ領事

ト雖モ其ノ國法ニ因テ設定シタル場合ノ外

決シテ言渡ヲ為スヿヲ得ス

○又爰ニ注意スヘキヿアリ総テ歐洲ニ於テ獵

律ヲ嚴密ニ建タル所以ハ全ク免許ヲ得スシ

テ猥リニ獵スルヿ鳥獸ノ滅尽ヲ防カン

為ナリ因テ現今日本國内ニ離散シタル僅カ

ノ外國人ニ付左程若慮スルニ足ラス然レ今

外國人ニ對シテ嚴酷ニ法律ヲ設ケハ却テ裁判上ニ於テ不都合ヲ生スヘシ是レ細少ノ一事ヨリ竟ニ至大ノ難事ニ及フヿ間〻有ルモノナレハ之ト甚タ注意スヘキ事ト察スルナリ

三月十七日　ブスケ誌

鳥獸獵

○千七百八十九年第八月十一日及第十一月三日決定ノ律

第三條　獵及從來建設ノ獵場ニ就テ永除クヘキ律ハ廢棄セリ然レトモ所有主ハ一般ノ安寧ニ關シ力メテ警律ニ從ヒ已レノ所有地ノ諸鳥獸ハ獵リ盡シ或ハ獵リ取ラシムルヿヲ得可シ

○第五年「ブリユウメエル」十九日決定ノ田圃ニ損害スル獸類ヲ獵ルヿ

第一條ニ抵觸

載一モナ

可ク安有地ル

十一

第一條第二條及ヒ此他ノ既條ハ後チ発行ノ法律詔令等ニ抵觸シ或ハ廢止セラレタルモノトス

第一條 「ワンテミユール」二十八日規定ノ總テ國民ニ屬シタル山林ニ於テ獵ノ制禁ハ從前ノ如ク存シ置クヲ可シ

第二條 然レトモ國民ニ屬シタル山林及ヒ邑里ニ於テ各三箇月若クハ切要ナレハ數ヽ大獵（大獵ハ獸類ヲ採マスメ紙テ捕獲スル云フ）又ハ小獵（小獵ハ仮令ハ一獸ヲ指シテヲ獵スル云フ）ヲ許スヲ就中狐狼、狸、貉、及其他損害ヲ為ス獸ヲ獵スル

第三條 凡ソ諸獵ハ郡（アロンディスマン）ノ山林監守ノ請ヒトカントン（郷也）ヨリノ請求ト一致ノ上其縣廳（ラズルトマン）ヨリ免許ヲ下スヲ可シ

第四條 諸獵許可ヲ得シ上ハ山林監守「カントンノ行政ト一致シ獵ノ期日及ヒコレニ會合スル人員等ヲ規定メ後テ之レヲ支配監督シテ獵リ行ハレム

第五條 郡ノ司政役（郡縣令及ヒ邑長等ヲ云ハ）其郡ニ於テ獵件間及其他獵ノ方法ヲ心得タル平民ニ獵業ヲ許スノ權ヲ持ス郡テ獵夫ハ山林監守ノ立會ニテ差圖監督ヲ受テ獵リ行フヲ可シ

第六條　各獵ノ調書ニハ其獲物ノ員數及其種類ヲ記シ其略書ヲ大藏卿ニ差出スヘシ

第七條　共和政第三年第六月十一日獵夫ニ褒賞金ヲ與フヘキ布告アレハ人民ヨリ願立タル格別ノ獵ニ於テ獲シタル獸ハ官ノ吟味ヲ得ン爲其獸ノ有樣ヲ認メ同ク大藏卿ニ差出スヘシ

政府ニ屬スル山林ノ獵ニ關シタル千八百十四年第四月二十日ノ規則

第三條　國主ノ森林ニ於テハ何レノ人ト雖モ牡鹿、牝鹿ヲ捕獲シ或ハ殺スヿ嚴禁タリ

第六條　獵ニ二種ノ免許アリ則銃獵ノ免許、捕獵ノ免許ナリ

第八條　山林紙轄（アデヤン）人及山林監守ハ獵ノ警察ヲ於テ其法律及規則ノ精密ニ行ハルヽタリ能ク注意スヘシ

獵ノ警察ニ就テ千八百四十四年第五月三日及四日決定ノ法律

第一款

獵律ノ布告

第一條　未タ開獵ノ期至ラス且ツ獵ノ官許ヲ得サル者ハ一人タリ𪜈獵スルヿヲ得カ他人ノ所有地ニ於テ其主又ハ其假有人ノ承諾ヲ得スシテ獵ヲ為スノ權ヲ持スル能ハス

第二條　所有主或ハ假有人ハ其住家アル地面ニ壁牆ヲ結圍シテ隣地トノ通路ヲ閉塞シタル其囲中ニ於テハ何時トテモ獵シ又ハ人ニ獵ラシムルヿヲ得ヘシ

第三條　縣令ハ決議ニ因テ少クトモ十日以前ニ各縣内ニ獵業開閉ノ期日ヲ布告スヘシ

第四條　各縣内ニ於テ未タ獵ノ免許布告ナキニ鳥獸ヲ賣買シ或ハ之ヲ持廻リ或ハ之ヲ運輸スルヿ嚴禁タリ

此規則ヲ犯スヿハ忽チ其鳥獸ヲ剥奪ヲ累迫ノ貧院ニ渡ス「可シ、若シ此事件「カントン」ノ首府ニ於テ有ラハ縱テ治安裁判官ノ命ニ出ヘシ若シ又治安裁判官又官アル時カ又ハ首府ノ外「コムミユン」邑ニ於テアル時ハコノ命令邑長ノ權ニ在リ

總シテ此ノ令權ハ其剥奪ヲ取行フ役員カ

又ハ監守人ノ上告及ヒ法則ノ如ク認メタ
ル訴書ノ差出ニ因テ申渡サル可シ
鳥獸ノ捜索ヲ為スニハ旅亭、食肆及市場ノ
外平常ノ人家ヲ探ル可シ
他人ノ所有地ニ於テ山鷄、雉、鶉ノ卵及「クー
ウエ」未タ巣中ニ在ル初生ノ雛鳥ニ至リ取リ或ハ毀ツヲ制禁ス
リ

第五條　獵ノ免許ハ邑長及副縣令（スーフレフエ）ノ議案ニ因
テ縣令ヨリ渡サル可シ然シテ獵ノ免許ヲ
請フ者ハ各々其管内ニ住家ヲ持ツ可シ獵
シ獵ノ免許ヲ受ルニハ國益トメ拾五「フラ
ンク」ヲ以テ此條ノ前節ニ記シタル邑長ノ所
所轄ノ「コムユン」邑ノ利益トメ拾「フラン
ク」ノ高ヲ納ム可シ
獵ノ免許鑑札ハ現人ニ渡サル可シシテ其
鑑札ハ全國中ニ通用シ總テ一年間ヲ以テ
其限トス可シ

第六條　縣令ハ左ニ記列シタル事件ヲ犯シ刑
ヲ受タル者ニハ獵ノ免許ヲ拒ム可キヲ得可
シ

第一ニ現在國籍ニ記載セラレサル丁年（二十一歳以上）以上ノ者或ハ其父母ノ收稅簿ニ載ラサル者

第二ニ刑律第四十二條中ニ陳列シタル內ノ一箇ノ民權ヲ官裁ニ因テ剝奪サレタル者尤モ兵器ヲ所持スルノ權ハ例外トス

第三ニ謀叛ヲ企テ或ハ政府ノ官員ニ向テ暴行脅迫シタル犯罪ニ付六ヶ月以上ノ因獄ヲ受タル者

第四ニ免許ヲ受サル會社製造、借財ニ就テ及銃炮、火藥、其他軍糧ノ分配ニ就テノ犯罪或ハ非道ノ書面言語ヲ以テ強ク人ヲ恐喝スルノ罪或ハ穀物ノ相場ヲ騰リニ動カシ或ハ樹木、收納物、植立ノ苗物并艸木ノ生芽ヲ折毀スル等ノ犯罪ニ因テ處刑セラレタル者

第五ニ流浪、乞食、窃盜ニ因テ處刑セラレタル者

前ノ三、四、五、節ニ記列シタル犯罪ニ因テ刑ヲ受タル者五ヶ年ヲ出レハ獵ノ免許ヲ受

ヘリヲ得可シ

第七條　左ニ記列シタル輩ニモ獵ノ免許ヲ拒ム可シ

第一、十六歳未満ノ幼者

第二、十六歳ヨリ廿一歳マテノイマダ丁年ニ至ラサル者父母或ハ其後見人ノ收稅簿ニ上名サレタル者ヨリノ請ヒ願キ者

第三ニ已レノ財産ヲ自由ニスルノ權ヲ剝奪サレタル者

第四ニ「コムミュン」邑及ヒ「コムタブリスマンビュラリック」貧院及ヒ病院等ヲ云ニ屬シタル田畑山林ノ監守人并ニ政府ノ山林監守及監漁人（ガルトペーシ）

第八條　左ニ記列シタル輩ニモ亦獵ノ免許ヲ拒ム可シ

第一、衆ノ言渡ヲ受テ銃炮ヲ所持スルノ權ヲ剝奪サレタル者

第二、此律ニ因テ擬定シタル輕罪ヲ犯シ申渡サレタル衆ニ付未タ刑ヲ受サル者

第三、刑期充テテ未タ警察司ノ監督ヲ受ヘキ者

第九條　開獵ノ期限内ニ一日間ノ銃獵或ハ捕獵ノ免許ヲ得タル者已レノ所有地内ハ勿論他人ノ所有地内ニ於テモ其地内ノ行獵ノ權ヲ持シタル人ノ承諾ニ依テハ獵ヲ為スヿヲ得ヘシ

第十條　網或ハ「アミ」「アミ」ハ柔色ノ小網ヲ以テ獸物ヲ捕獲スルニ獸ヲ地窟ニ住ヲ用ヰル獸ヲ穿鑿セレルルニ用ヰル

獵法ノ外其他ノ方法ハ嚴禁タリ

然ルニ縣令ハ其大議事ノ議案ヲ以テ獵ノ期ヲ極定セレ為左ノ件々ヲ決議ス

第一ニ　鶏ノ外渡鳥（ワウテウハヤリ）ヲ獵スルヿ及其獵法ヲ定ムル事

第二ニ　沼、池、河川ノ水鳥ヲ獵スルノ期限ヲ定ル事

第三ニ　所有主及假有主（即チ田畑借主）其地面ニ於テ時期ヲ獸ハヽ獵リ得可キ所ノ害ヲ為ス獸ノ種類及ヒ以律ヲ守ルヿノ約定ヲ極定スルヿ、然ニ所有主或ハ假有主已レニ屬スル權ヲ以テ其所有地ニ損害ヲ生スル惡獸ヲ逐ヒ或ハ殺レ或ハ銃器ヲ用ヰルヿハ是

例外トス

縣令ハ又左ノ件々ヲ決定スル可シ

第一ニ 鳥ノ盡滅スルコトヲ預ヲ察スル可キ事

第二ニ 害ヲ為ス惡獸ヲ獵ル1ニ就テ狩犬ノ役ヲ為サシム事

第三ニ 雪中ニ獵ヲ禁制スル1

第十條 詔令ハ輕罪ヲ確定スル為ニ監守人卿係兵調書人ニ任ス可キ宥免ヲ極ム可シ

第二款 罪罰

第十一條 十六「フラン」ヨリ百「フラン」迄ノ罰金ヲ出ス可キ罪名

第一ニ 免許鑑札ヲ受スノ獵スル者

第二ニ 他人ノ所有地ニ於テ其所有主ノ許諾ヲ得スシテ獵スル者

若シ未タ収納ヲ畢ラサル田畑ニ於テ或ハ人家ニ接セスト雖モ隣地トノ通路ヲ塞ヲニ牆壁ヲ以テ界域ヲ建タル地所ニ踏ミ入リ獵スル者

若シ狩犬其主ノ所有地内ニ於テ一獸ヲ逐

ヒ終ニ他人ノ所有地ニ到ルトキハ獵ノ輕重ト見做スヲ可ラス然ト雖モ他人ノ地内ニ於テ物ヲ損破スルトキハ犬主人ノ情ノ儀ヲ以テ之ヲ償フハ例外トス可シ

第三ニ渡鳥（ワイルドフォーウル）氣候ニ從テ他邦ヨリ來ル鳥水鳥雪中ノ獵、將犬ノ使役ニ管シタル縣令ノ決議或ハ物ニ損害ヲ為ス鳥獸ノ獵ヲニ管シタル縣令ノ決議ニ違犯スル者

第四ニ他人ノ所有地ニ於テ雉、山鷄及鶉ノ卵或ハ「ターウエッツ」ヲ取毀ツ者

第五ニ山林監守ノ所轄ニ在ル森或ハ諸所有地ヲ「フロ、ミエン」及ヒ「エタブリスマンビュブリック」ノ有益トノ貸シタル時立ニ取替ハセタル證書ノ箇條ヲ違犯シタル其借主

第十二條　五十「フラン」ク」以上二百「フランク」迄ノ罰金及其他六日以上二ヶ月迄ノ囚獄ノ罪名

第一ニ禁止ノ期内ニ獵禁ヲ犯ス者

第二ニ夜中ニ獵シ或ハ制禁ノ獵具ヲ用ヒ或ハ第九條ニ記列シタル獵法ノ外他ノ方

法ヲ以テ獵スル者

第三、制禁ノ獵網其他ノ獵具ヲ所有シ或ハ貯ヘ或ハ其戸外ニ運出スル者

第四、未タ解獵ノ布告ナキニ鳥獸ヲ賣買シ或ハ他邦ヘ之ヲ輸出スル者

第五、鳥獸ノ死シ或ハ落醉ス可キ餌或ハ藥品ヲ用イテ獵スル者

第六、呼鳥笛或ハ餌鳥（他鳥ヲ呼ヒ網中ニ陷レシヲ為ス者）ヲ置ク所ノ籠入ノ鳥ヲ以テ獵スル者

此條ニ因テ極置サレタル罪罰ハ庚中他人ノ所有地ニ於テ獵シ及ヒ前條ニ陳述シタル方法ノ一ニ由テ獵ヲ為ス者現在兵器ヲ持シ或ハ隱ニ之ヲ持スル階層ハ可シ

若「コムミユン」ノ田畑或ハ山林監守又ハ政府或ハ「ユタブリスマンピユブリック」ノ山林監守輕罪ヲ犯ス時ハ前第十一條及ヒ此條ニ因テ極置サレタル罰ノ量モ重キニ依テ處ス可シ

第十三條　住家アリテ牆壁ヲ以テ界域ヲ成シタル他人ノ所有地ニ於テ其主ノ許諾ヲ得スシテ猟入リ獵スル者ハ五十「フラン」

ク」以上三百「フランク」迫ノ罰金ヲ科シ且ツ
六日以上三ヶ月ノ囚獄ニ處スヘシ
若シ夜中ニ犯罪セハ其犯人ハ百「フランク」
以上千「フランク」迫ノ罰金ニ處セラルヘシ且
三ヶ月以上二年間ノ囚獄ノ刑ヲ受クヘシ然
ト雖モ其他ノ場合ニ於テ本刑法條ニ於テ
論スヘキ重罪アル時ハ例外トスヘシ

第十四條　前第十一十二十三條ニ極定サレタル
罪罰ハ若シ犯人再犯シ或ハ面体ヲ偽シ
或ハ偽名シ或ハ人ニ向テ暴行脅迫為ス時
ハ総テ階層ヲ尤モ本刑法ニ於テ論決スヘ可
キ重罪アルトキハ例外トスヘシ

前第十一條ニ擬定サレタル場合ニ於テ若
犯人前罰ニ懲リズ少再犯スル時ハ六日已
上三ヶ月迫ノ囚獄ニ處スヘシ

第十五條　罪ヲ犯シテヨリ十二ヶ月ノ内ニ此律
ニ於テ罪ノ言渡ヲ受ル時ハ再犯トスヘシ

第十六條　総テ断刑ノ裁判ハ獵網及其他ノ獵
具ヲ剥奪スルヲ論決シ又禁猟ノ獵具ハ
破毀ノ命ヲ下スヘシ

同ク鳥銃ノ刑奪ヲ申渡ス可シ尤モ猟獵ノ時ニ當テ獵ノ免許ヲ請タル人ノ軽罪ヲ犯シタル場合ハ例外トス

若鳥銃獵網或ハ他ノ獵具ヲ刑奪サレタル時ハ其現物ヲ納ムル又ハ裁判ニ因テ極リタル其物品ノ價ヲ納ム可シ其價金ハ五十「フランク」ヨリ下ル可カラス

若シ捨置レタル鳥銃或ハ其他ノ獵具ノ所有主知レサル時ハ刑奪ヲ其權分ノ裁判所ノ書記局ニ没入ス若刑奪或ハ破毀ヲ成ス

ニハ訟書面ニ因テ令ス可シ

紙ヲノ場合ニ於テ償金ノ高ハ裁判所ノ評價ノ議論ニ任ス可シ

第十七條　此律或ハ本刑法ニ因テ擬定シタル二罪以上ヲ犯ス時ハ其罪ノ最モ重キヲ擧テ論決ス可シ

犯罪ノ訟書、罪犯ノ順ヲ追テ列ル時ハ通計シテ論決ス可シ尤モ再犯ノ罪ハ例外トス可シ

第十八條　此律ニ因テ擬定サレタル軽罪ノ中

渡ニ於テ裁判官ハ其犯人ニ一時ノ獄ノ免許ヲ得ンノ權ヲ剥奪スルヿヲ得ル也五年間ヲ出ヲ可ラス

第十九條　前第十條ニ陳述シタル罰金ノ宥免高ヲ其総高ヨリ引除ク可シ

右引除キ残リ高ハ其違犯シタル所ノ「コムミュニ」ニ収入ス可シ

第二十條　刑法第四百六十三條ハ此律ニ因テ擬定シタル軽罪ニハ當テ行フ可ラス

第三款

○訴訟及裁判

第二十一條　此律ニ因テ擬定シタル軽罪ハ訴書ノ報知ニ因テ訴實シ或ハ若依ル可キ訴書ノ報知ナキ時ハ訴状人ヲ呼出シテ訴實ト為ス可シ

第二十二條　邑長及其副貢（アジュタン）警察士官（コムミセールデポリス）「マレシヤル デロジー」（帝王ノ巡行ニ付宿陣ノ備装ヲ為ス役員ヲ云フ）郷保（デアニングルム）兵山林監守監漁人田園監守及「ガルドアスセルマンテーデパルチキエリエー」（平民ノ代監守ヲ云フ）ノ訴書ハ及對ノ吟味ニ至テモ證実ヲ表ス可シ

第二十三條　間稅及「ヲクトロワ」（田舍ヨリ市内輸入スル濁酒ノ類）ノ賣物ノ司トル役員ノ訟書ハ已レノ權限ヲ於テ前第四條ノ第一節ニ因テ擬定サレタル輕罪ノ吟味シ且認定スル時ハ反却ノ吟味ニ至ルヒ訟實ノ表ス可シ

第二十四條　輕罪ノ犯シ二十四字間ニ監守人ノ訟書其犯人ノ住居シタル「コンミユン」カ又ハ其罪犯セシ「コンミユン」ノ治安裁判官或ハ其代員或ハ邑長又ハ其副役ノ面前ニ於テ調書（レダクテール）人ニ因テ誓實サレサル時ハ其訟書用ヰ為サス

第二十五條　若シ犯人面体ヲ偽リ姓名ヲ知ラレムル事ヲ忌ミテ其住家知レサル時ハ直チニ邑長或ハ治安裁判官ノ前ニ誘キ而テ其人ノ来由ヲ知ル可シ

第二十六條　此律ニ因テ擬定サレタル総ノ輕罪ハ目代（ミニストラール・ピュブリック）官已レノ役員ニ對シテ訴フ可シ然シ治罪法コートノ第百ハ十二條ニ因テ被犯人ニ許諾サレタル法ニハ相抵觸スル事無カル可シ

然ト雖モ他人ノ所有地ニ於テ其主ノ承諾ヲ得ズシテ獵ヲ成シ又前第二條ノ文章ノ如ク壁牆内ニテ罪ヲ犯シ及一ノ人家ニ近キ或ハ未タ収納セサル田畑ニ於テ軽罪ヲ犯スモ被犯人ヨリ訴告セサレハ其代官職掌ニ對シテ訴訟シ又ハ扱フヿヲ得可シ

第二十七條　一時二罪以上ノ獵罪ヲ犯ス者ハ其損失ト罪金トヲ通算シテ出サシム

第二十八條　未タ結縁セサル若輩及其同居ノ幼童ノ或ハ下僕或ハ附屬獵ノ軽罪ヲ犯ス時ハ其父母其後見人其雇主或ハ其小頭総テ引請人タル可シ

此引請ハ民法第千三百八十四條ニ從テ計ラハル可シ且ツ損失ノ償已ミヲ為サシメ決テ禁錮ノ刑ニ行フヿヲ得ス

第二十九條　此律ニ擬定サレタル軽罪ニ関シタル総テノ事件ハ軽罪ヲ犯シタル日ヨリ算シテ三ヶ月ヲ期限トシ抹拳ス可シ

第四款

○一般ノ定則

第三十條　獵權ノ行ニ關係シタル此律則ハ帝王ノ所有地ニ布行スヿヲ可ラス若其所有地ニ於テ輕罪ヲ犯スヿ時ハ第二款第三款ノ例ニ因テ訟告シ且罰スヿヲ可シ

第三十一條　千八百十二年第五月四日ノ布告及千七百九十年第四月三十日ノ法律ハ廢セラレタリ

此律ニ因テ規定シタル件々ニ中テ置カレタル法律決斷布告及詔令ノ此規則ニ反スル者ハ同ク廢セリ

○千八百四十五年第五月五日ノ詔令

第一條　獵ノ警察ニ於テ千八百四十四年第五月三日決定ノ法律ニ因テ違犯ノ罪ヲ訴定スル所ノ警察兵山林監守田圃監守「カルトアセルマンデー」及ヒ平民ニ許諾シタル宥免ハ左ノ如ク定ム

○八フランク　第十一條ニ因リ擬定サレタル輕罪ノ宥免

○十五フランク　第十二條及ヒ第十三條中ノ第一節ニ因テ擬定サレタル輕罪ノ宥免

○二十五フランク　第十三條中ノ第二節ニ因テ擬定サレタル輕罪ノ宥免

第二條　宥免ハ罰金ノ申渡シ毎ニ許諾セラル

可シ其省免ハ騎事役（ハンドヤーハ、スツアンレデスト、トルマン）ヨリ當時ノ方法及勘定規則ニ因テ渡サレシ可シ

第四條　輕罪ノ訟定シ且訟書ヲ調成スルニ數多ノ役負合集シ盡力スルト雖モ唯一ノ省免ノ外許諾ス可カラス

○魚獵（惣テ河川等ノ漁ヲ云フ）

千八百二十九年第四月十五日決定

ノ法律

○第一卷　魚獵ノ權

第一條　魚獵ノ權ハ政府ノ所益トノ左ノ場所ニ於テ施行セラル可レ

第一ニ　政府或ハ其仮有主ノ費ニテ修築等ヲ為ス惣テノ河川、堀割及舸筏等ヲ用ヒテ浮航ス可キ堀ニ於テ

第二　常ニ漁舟ニテ隨意ニ航通ス可キ河川

ノ分水ヲ受ケ且政府ノ費ニテ修築スル潛曲池及小堀等ニ於テ

然シ人民ノ所有地内ニ從来現存シ又ハ向後鑿ル可キ堀割及小堀等ノ修築ノ費其所有主ヨリ出ルモノハ此限ニ非ラス

第二條　前条ニ記列シタル川、河及堀割ヨリ他ノ川及堀割ニ於テハ其岸頭ノ所有主ハ流ノ中央ヨリ割ノ其岸頭マテノ間ニ各自魚獵ノ権ヲ持ス可シ但シ所有或ハ仮有ノ名目証券ニ於テ反對シ権アル者ハ此例ニアラス

第三條　法律ノ「ビュル」（法律ヲ編輯スル大簿）ニ編加サレタル詔令ニ於テ河川等ノ便不便ヲ検査ス何処ヨリ何処迄ヲ何及川ノ部分トシ或ハ前第一条ノ第一第二節ニ著記シタル堀割等ノ部分ノ極定ス且魚獵ノ権ハ政府ノ所益トメ施行セラル可シ

又此詔令ハ海ニ流ヲ通シタル河、川ニ於テ川（ルヴィエル）漥（ムリヤム）ト海漥トヲ區別シ其界域ヲ定ム是等ノ境界ハ海軍兵徴募畫（アンスクリプシヨン）區ノ法ト同シ然シ河水ト潮水トノ点頭ニ於テ爲シタル魚獵ハ川魚

ノ為ニ建設シタル警律及保有ノ規則ニ從フ可シ

若シ川流ニ舟舸ヲ用ヒテ浮航ス可ク作リ為スカ又ハ公布サレタル場合ニ於テ魚獵ノ権ヲ剥奪サレタル所有主ハ法律ニ於テ定メタル格法ニ從ヒ前以償金ヲ得已シニ損失ヲ受サルノ権ヲ持スヘシ（ロードノ増則中千八百六十五年第三月三十一日ノ法律ヲ見ヨ）

第四條　約定書中ノ意味違ヒ並ヘ約定執行及ヒ羅賣（アデュディカシヨン）ニ付行政ト買主（アデュディカテール）トノ間ニ生シタル

諍事又ハ所有ノ権及魚獵ノ権ニ付行政又ハ其仮有人（行政ノ官吏ヲ云フ）ト被益ノ他人トノ間ニ生シタル惣テノ諍事ハ三等裁判所ニ出訴シ裁判ヲ請フヘシ

第五條　若シ舟ヲ用ヒテ浮航ス可キ川、堀割及其他ノ流水溝渠等ニ於テ魚獵ノ権ヲ有シタル人ノ許諾ヲ得スシテ漁スル者ハ二十フランヨリ百フランニ迄ノ罰金且損害償金ノ言渡ヲ受クヘシ其他獲タル魚類ハ代金ヲ以テ返納セシメ且使用シタル漁網其他ノ漁具

ヲ没収スルノ言渡ヲ受クヘシ

然シ此律ノ第一条中第一第二節ニ記列シタル川及堀割等ニ於テ糸線ニ浮標ヲ用ヒ釣ヲ垂ルハ奥類ノ子ヲ生殖スル時季ヲ除クノ外衆庶ニ許スヘシ

第二巻　奥猟ノ行政及制度

第六條　惣テ満二十五歳ニ至ラサル者ハ奥猟監守人ノ職ヲ勤ムルヲ得ス　山林律第三条見合

第七條　監漁ノ任ヲ受ケル吏員ハ已レノ居住ノ地ノ三等裁判所ニ於テ誓ヲ為シ且已レノ職務ヲ施行スル「レッツル」諸裁判所ノ書記署ニ於テ其職分及既ニ誓書ヲ上録シタル以上ニ非サレハ其職務ヲ施行スルヲ得ス

若シ職務中已レノ居住ヲ他ノ「レッツル」中ニ轉スルトモ更ニ誓ヲ為スニ及ハス

第八條　奥猟監守人ハ已レノ請持場内ニ於テ犯シタル惣テ軽罪ノ責メニ任シ且自ラ確証シタル軽罪ニ付不適切ナル件ハ其犯人ノ罰金並ニ償金ノ格当ヲ命セラル可シ　山林律第五条見合

第九條　魚網ノ検印トシテ監守人ノ用ユル鉄ノ刻印ハ三等裁判所ノ書記署ニ預ケ置カルヘシ

○第三卷　魚獵糶賣

第十條　政府ノ所益タル魚獵ニハ糶賣ノ方法或ハ掛ヒ下ケノ方法ヲ用ユヘシ

此掛下ケ方法ハ既ニ糶賣ノ方法ヲ施シ試ニ若シ見込ト相違シ落價ニ至ラサルトキニ執行スヘシ

魚獵ノ棄賣落價ニ成ラサル時ハ棄賣執行ニ付キ普ク公告ヲナシタル手續ト棄賣ノ見込ノ價ニ達セス落價ニ至ラサリシ模様ヲ会議ノ調書ニ具ニ記載スヘシ

第十一條　魚獵ノ糶賣執行ノ日ハ少クモ十五日前ニ「デパルトマン」ノ首府並ニ其漁場ノ河岸景寄ノ「ユンレユン」及ヒ其漁場アル「コンミユン」ノ隣周ノ「コンミユン」内ニ公示書ヲ貼附スヘシ

第十二條　公ノ糶賣法ニアラサル方法ヲ用ヒ

テ為シタル奠獵賣附ハ惣テ隱密ノ業ト見做シ且其効ナカルヘシ

若シ業賣ニ管係ノ官吏等之ヲ金ニ又ハ行ハシタル時ハ一ヶ年ノ漢金高ニ均シキ又ハ倍スル罰金ニ連帶ノ言渡ヲ受クヘシ（山林律第十八条見合但シ拂下ケノ方法ヲ用ヒ為シタル場合ハ例外タルヘシ）

第十三條　前廣ノ公告及前第十一条ニ記シタル公示書ノ貼附ヲ為サヽル業賣又ハ公示書及糶賣ノ調書ニ載示シタル場所期日及時刻ニアラサル他ノ場処期日時刻ニ執行シタル糶賣モ亦効ナカル可シ

官吏等此規則ニ違犯スル件ハ一ヶ年ノ奠獵金高ノ罰金ニ連帶ノ言渡ヲ受クヘシ且買主之ニ連累タル時ハ右ニ均キ罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第十四條　糶賣執行中ニ其價ノ当否或ハ買主及保証人ヨリ代價上納ノ了ニ付生シタル諍事ハ糶賣會議ニ上席スル所ノ官吏ニ依テ即時ニ処断サルヘシ

第十五條　左ノ第一第二第三節ニ記載シタル輩ハ各自又ハ他人ノ姓名ヲ借リ又ハ他人ニ頼ミ或ハ別格ノ部分トシ或ハ仲間ニ組シ或ハ保証人トシテ巣賣買手ノ部ニ加ハルヿヲ得ス

第一ニ全國ノ吏員（アジヤン）森林監守人及巣獵監守人並ニ已シノ職務ヲ施行スル地内ニ於テ糶賣ニ會合シ且其上席ノ任タル官吏（フランクトヨツテール）及巣獵ヨリ収入スル金額ヲ受納スル官吏若シ此等ノ官吏違犯シタル時ハ巣獵糶金高ノ十二分ノ一ヨリ少カラス四分ノ一ヨリ多カラサル罰金ニ処シ且刑法第百七十五条ニ記シタル入獄及償金言渡ヲ受クヘシ

第二ニ吏員（アヂヤン）森林監守人及巣獵監守人ノ所監地ニ於テハ是等ノ吏員ノ父母、宗系ノ親、姉妹ノ聟、伯叔父及甥若シ是等ノ人違犯シタル時ハ前節ニ均シキ罰金ニ処セラルヘシ

第三ニ「シツツル」ノ各郡ニ於テハ其「シツツル」

中ノ州會議員三等裁判所ノ裁判官検職及書記役

若シ此等ノ官吏違犯シタル件ハ損失アルハ惣テ其償金ヲ擔当セシム

此条ノ規則ニ違背シ執行シタル業賣ハ惣テ其効ナシトス（山林律第二十一条見合）

第十六條　業賣ノ損害トナリ又ハ之ヲ妨乱シ又ハ奥猟ヲ低價ニテ買ヒ得ル等ニ付惣テ隠ニ党ヲ組ミ或ハ漏失或ハ他人業畧ヲ用ユル者ハ刑法第四百十二条ニ依テ處断サレ其他悉皆ノ損失償金ノ言渡ノ受ク可シ

若シ隠ニ党ヲ組ミ又ハ惣テ前節ニ記シタル等ノ業畧ニ依リ利益ヲ得タル糶賣落價ハ其効ナカルヘシ

第十七條　「コンマン」（他人ヲ以テ業賣ヲ買取人ヨリ為ス）何レシ陳述ト雖モ糶賣執行ノ後チ直チニカ及業賣執行シタル其席ニ於テ為スニアラサレハ受理スヘカラス

第十八條　定リタル期限内ニ証書ニ因テ必要トスル保証人シ具備セサル買主ハ州長ノ権

断ニ因テ落價ヲ除名シ且買主不相当ノ買方ヲ為シタルヿニ更ニ棄賣ヲ執行スルヿヲ公告スヘシ

除名ヲ受タル買主ハ已シノ買ニ得タル價トノ間ニ違算生スル片ハ拂方ツル迄ハ鎖錮ノ刑ヲ受クヘシ但シ再度ノ棄賣ニ於テ初度ノ落價高ヨリ騰ルト雖モ初メノ買主ハ其過越シタル高ヲ受クルヿヲ得ス（林律第二十四条見合）

第十九條　惣テ糶賣落價ト告知サシタル以上ハ確定タルヘシ何シノ場合ト雖モ奉價スルヿヲ得可ラス

第二十條　糶賣ノ種ニノ方法ハ王ノ詔令ニ因テ決定サルヘシ

棄賣ハ惣テ公告等ヲ為シ且競價ニ因テ執行スヘシ

第二十一條　買主ハ其棄賣執行ノ地ニ仮ノ住所ヲ設置クヘシ否ラサル片ハ惣テ之ニ管係ノ書類ハ郡ノ書記署ニ送達スヘシ（千八百四十年六月六日ノ法律ヲ見ヨ）

第二十二條　糶賣ノ調書ニハ「ヨギゼキユシヨ

ンパール「ヲ別段許可ヲ得スシテ執行スルノ権」及入費ヨリハ先ツ落價ノ元額ヲ拂ハサル件其拂立マテ買主及其仲間並ニ保証人ニ對シ鎖鋼スルノ権ヲ記載スヘシ其他保証人ハ買主ヨリ生シタル損失償金又ハ追徴又ハ罰金ノ仕拂立マテハ鎖鋼ヲ受ルヿアル可シ 山林律第二十八条

○第四卷 奥獵ノ保有及警察

第二十三條 何人タリトモ左ノ規則ニ循守セサル者ハ河又ハ舸筏ヲ用ヒテ浮航スヘキ川又ハ堀割溝洫及流通ノ場所ニ於テ魚獵ヲ為スヿヲ得ス

第二十四條 河川堀割溝洫等ニ於テ魚類ノ行通ヲ全ク隔絶スル様ノ漁具ヲ張設スルヲ禁ス

若シ違犯スル者ハ五十「フランク」以上五百「フランク」迄ノ罰金ニ処シ且損失償金ヲ出サシムヘシ其他漁具ハ没収ノ上破毀セシム可シ

第二十五條 若シ漁スルニ奥類ヲ落醉セシメ或ハ落死セシムル質物ヲ水中ニ投スル者ハ

三十「フランク」以上三百「フランク」迄ノ罰金ニ
処シ且一ヶ月以上三ヶ月迄ノ禁錮ニ処スヘ
シ

第二十六條　詔令ニ於テ左ノ件ニヲ決定スヘ
シ

第一ニ川及諸流通ノ場所等ニ於テ漁禁ノ期
限氣候及刻限

第二、川魚ノ増殖ヲ妨ケサル為メ制禁スヘ
キ魚獵ノ方法

第三ニ川魚ノ繁殖ノ妨害タル制禁スヘキ漁
網及其他ノ漁具

第四ニ諸種ノ魚ヲ漁スルニ付キ諸州ニ於テ
許スヘキ網等ノ寸法

第五ニ漁シ取ル可カラス且漁網ニ罹ルト雖
モ復ヒ水中ニ放ツヘキ各種ノ魚類ノ寸法

第六ニ針ニ餌ヲ用ヒテ釣ヲ垂レ或ハ「ナス」柳枝ヲ以テ編タル漁具網或ハ他ノ漁具ヲ用イテ漁
ス可カラサル諸種ノ魚類

第二十七條　詔令ニ於テ禁シタル期限氣候及
ニ時刻中ニ魚獵ヲ犯ス者ハ三十「フランク」以

上二百フランク迫ノ罰金ニ処スヘシ

第二十八條　詔令ニ於テ制禁シタル漁具或ハ制禁ノ方法ヲ用イテ河川堀割及溝渠ニ於テ漁シタル者ハ三十フランク以上百フランク迫ノ罰金ニ処スヘシ

魚類ノ子ヲ生殖スル時節ニ漁罪ヲ犯ス者ハ六十フランク以上二百フランク迫ノ罰金ニ処スヘシ

第二十九條　細魚ノヒヲ漁スル為メニ官許ヲ得タル網ヲ他ノ魚猟ニ用ユル者ハ前条同様ノ罰ニ処スヘシ

制禁ノ漁具ヲ已レニ居住外ニ携ユルヲ見露ハサレタル者ハ二十フランクヨリ多カラサル罰金ニ処セラレ且若シ其漁具等池或ハ溜ニ於テ使用スル為メノ具ニアラサル片ハ之ヲ没収スヘシ

第三十條　若シ詔令ニ因テ定リタル寸法ニ相違シタル魚ヲ漁シ或ハ之ヲ它方ニ輸出シ或ハ賣ハル者ハ二十フランク以上五十フランク迫ノ罰金ニ処シ且其魚ハ没収スヘシ但シ尋

常ノ池或ハ溜ニ於テ漁シタル魚ハ此例ニアラス

人民一屬シタル長堀及堀割等ノ自然ニ川ニノ流通絶ヘタル者ハ池或ハ溜ト見做スヿヲ得ヘシ

第三十一條　若シ詔令ニ因テ公ニ告示サレタル禁止ノ魚ヲ釣リ或ハ「ナス」楊枝ヲ以テ編シタルモノ及網ヲ用イテ漁スルヿハ前条ニ齊シキ罰ニ処セラルヘシ

第三十二條　魚獵仮有人或ハ魚獵ノ拂下ヲ得タル人或ハ其仲間等ハ魚獵警察ノ行政官吏ヨリ刻印ヲ受サル漁網及其他ノ漁具ヲ使用スルヿヲ得ス

海軍兵徴募區域内ニ住スル総テノ漁夫此律ノ前第一条中第一第二節ニ記列シタル河川堀割等ニ於テ漁スルヿモ此条同様刻印ナキ漁網及其他ノ漁具ヲ使用スルヿヲ得ス

若シ刻印ナキ漁網或ハ其他ノ漁具ヲ使用スル者ハ一漁具毎ニ二十「フランク」ノ罰金ニ處スヘシ

第三十三條　河川堀割ニ於テ船舸ニテ常ニ浮航スル守長浮標役及舟子ハ仮令官許ノ漁具タリトモ其舟中ニ所持スルヲ得ス若シ違犯スル者ハ五十「フランク」ノ罰金ニ処シ且其漁具ヲ没収スヘシ

故ニ舟舸ノ着スル場所ニ於テ奥猟警察官吏ノ来視スルトキハ其舟中ノ改ヲ受クヘシ若シ是ノ来視ヲ拒ム者ハ前同様ノ罰金ニ処断スヘシ

第三十四條　奥猟仮有人奥猟ノ掛下ヲ得タル人及惣テノ漁夫此律ノ前第一条ノ第一第二節ニ記列シタル河川等ニ於テハ其舟ヲ其漁場ノ岸ニ着ケ漁具奥獄漁具筐及舟底マテ開キ惣テノ奥猟警察官吏ノ改ヲ受クヘシ奥猟警察官吏ハ漁夫等此律ノ規則ヲ守リシヤ否ヤヲ監視スヘシ若シ官吏ノ来視ヲ拒ミ又ハ奥類ノ改ヲ肯セサル者ハ五十「フランク」ノ罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第三十五條　奥猟仮有人及奥猟掛下ヲ得タル人ハ舟舸ヲ用ユヘキ河川堀割ニ於テハ僅ニ

兩岸ノ往路ヲ用ユルヿヲ得ヘシ若シ張網シ
或ハ揚網スルニ地所ヲ要スル時ハ其河頭所
有主ニ相對ヲ以テ要用ノ地所ヲ約借スヘシ

○第五条　輕罪條理ノ訴告

○第一款　行政ノ名ヲ以テ為ス訴告

第三十六條　政府ハ一般ノ有益ノ為メ魚獵ノ
監督及警律ヲ執行ス
故ニ是等ノ為ニ政府ヨリ設置タル格別ノ吏
員並ニ田圃監守人（エクリヤ）水樞司（ヒヤンスペシ）及司法警察官吏
ハ此律ノ第四条中ニ定メタル魚獵輕罪ヲ其
犯シタル地ニ於テ檢査ノ上確証ヲ取リ旦格
別ノ吏員ハ檢職ト共ニ総テ此等ノ犯罪ノ訴
訟及條理ノ事ヲ取扱フヘシ
格別ノ吏員田圃監守人、水樞司、及司法警察官
吏ハ前第五条ニ定メタル輕罪ヲモ亦タ確然
証述スルヿヲ得旦作リタル調書ヲ檢職ニ渡ス
可シ

第三十七條　政府ヨリ命シタル魚獵監守人ハ

政府ノ森林監守人ト同様ノ取扱ヲ受ヘシ

第三十八條　奥獵監守人ハ誓ヲ為シタル裁判所アル郡ニ於テハ調書ニ依リ軽罪ヲ探索シ且確証ヲ顕述スヘシ

第二十九條　監守人ハ制禁ノ漁網及其他ノ漁具ヲ使用シ又タ禁ジノ奥類ヲ漁護シタル者アルトキハ没収スルノ権ヲ有スヘシ

第四十條　監守人ハ制禁ノ漁網ヲ捜索セシ為メ口述ヲ以テ人家ニ入ルヿヲ得ス

第四十一條　禁ジ物トメ没収シタル漁網及其他ノ漁具ハ何レノ場合ト雖モ保証ヲ取リ還付スルヿヲ得ス且ツコレヲ書記署ニ預ケ置キ破毀ノ裁判アル迄ハ留メ置クヘシ

第四十二條　「カントン」ノ首府ニテ於テ制禁ノ奥類ヲ剥奪シタル時ハ治安裁判官又ハ其副員ノ指揮ヲ受ケ直チニ其最寄ノ「コムミユン」内ニ於テ喇叭ヲ以テ人ヲ呼集シ其奥ヲ迫賣ス又「カントン」ノ首府ニ非サル場所ニ於テ剥奪シタル時ハ「コムミユン」ノ邑長ヨリ是指揮ヲ為ス○此等ノ指揮ハ剥奪ヲ行フタル吏員及

監守人ノ申述且此等ノ吏員ノ規則ニ準シ作リ確証シタル調書ノ差出ニ依リ為サルヘシ

何レノ場合ニ於テモ奠類迫賣ハ収税官吏ノ面前ニ於テ為スヘシ官吏支障アル時ハ邑長又ハ其副員又ハ警察使ノ面前ニ於テ為スヘシ

第四十三條　監守人ハ奠獵犯罪取押ヘニ付已ムヲ得サル時ハ直チニ兵力ヲ借ルノ権ヲ有スヘシ又制禁ノ漁網及禁止ノ奠類ヲ没収スルヤト魚モ時宜ニ依リ兵力ヲ借ルノ権ヲ有スヘシ

第四十四條　監守人ハ自ラ調書ヲ作リ遅クモ書上ケノ翌日ニ「カントン」ノ治安裁判官或ハ其副員或ハ軽罪違犯ノ邑或ハコレラ確証シタル邑ノ邑長又ハ其副員ノ前ニ於テコレヲ調印シ且確然証述スヘシ否ラサル時ハ其調書効ナカルヘシ

然レモ若シ監守人支障アリテ調書ニ調印シタルノミニテ自ラ調書ノ全部ヲ作ラサル時ハ其調書ノ証述ヲ聞キ續クヘキ公士ニ於テ

先ツ讀聞カセシ為シタル上ニテ其原旨ヲ登
錄スヘシ否ラサレハ其効ナカルヘシ
第四十五條　森林監守人（ガルヒセヤ）監守長及騎上（ガルヒヤ）監守ハ
内一人耳ミカ又ハ奥獵監守人及田圃監守ノ
立會ニテ作リタル調書ハ証述ノ効ナカルヘ
シ
第四十六條　若シ調書中ニ漁具没収ノ事アル
ヒハ二十四時間ニ其写ヲ治安裁判所ノ書記
署ニ送付シ其没収物ノ代價ヲ収メ還付ヲ請
フ者トノ方便ヲ設クヘシ

此没収物還付ノ期限ハ格法ニ於テ極マリタ
ル調書ニ付確誓スル（アツ確ルヤシヨ）ノ期限ト同シ
第四十七條　調書ハ其確誓（アツ確ルヤシヨ）ノ日ヨリ四日内又
ハ確言スヘキナキヒハ調書ヲ作リタル日
ヨリ四日内ニ登記セラルヘシ否ラサル片ハ
其効ナカルヘシ
第四十八條　奥獵輕罪修理ノ訴ハ懲治裁判所
ニ持出スヘシ
第四十九條　呼出狀ニハ調書ノ写文及ヒ調書
ニ付確誓シタルヿヲ記載スヘシ之レヲ記載

セサルトキハ其効ナカルヘシ

第五十條　奥猟ノ監視ヲ任セラレタル山林監守人ハ政府ノ名ヲ以テ為シタル事案及訴訟ニ付総テ呼出ヲ為シ且裁判言渡書ノ寫ヲ送達スルヿヲ得ヘシ但シ没収執行ニ付テハ是例ニアラス

此等ノ証書ヲ作ルニ付右監守人ニ出スヘキ手数料ハ治安裁判官ノ門監ノ作リタル証書ノ手数料同様金額ヲ定メラルヘシ

第五十二條　此森林行政ノ吏員ハ事件ヲ下等裁判所ニ申述スルノ権ヲ有シ且已シノ為シタル号議ノ聞届ヲ得ヘシ（山林律第百七十四条）

第五十二條　奥猟ノ事件ニ管シタル軽罪ハ調書ニ因テ証拠ヲ取ルヘシ

若シ調書無キトキ又ハ調書等具備セサルトキハ証人ニ因リ証拠ヲ取ルヘシ

第五十三條　前第四十四条及第四十七条ノ規定シタル都テノ格法ヲ具備シ且二人ノ吏員又ハ二人ノ監守人ノ記作シ調印シタル調書ハ仮令ヒ裁判言渡ヲ為シタリト雖モ是等ノ

監吏ノ確誓シタル輕罪ノ派件ニ付詐偽タルヿヲ陳述スル願書ヲ出スマテハ実証ト為スヘシ

故ニ調印者中ノ一人ニ對シ反訴スルヿヲ法律ニ於テ許シタル原由アルニ非シハ何シノ証拠又調書中ノ個条ニ付書キ誤等ノ申述ヲ受理スルヲ得ス

第五十四條　前記シタル惣テノ格法ニ從ヒ作リタル調書ハ仮令吏員又ハ監守人ニテ之ヲ作リ且ツ之ニ調印シタリト雖モ同ク詐偽タルヿヲ陳述スル願書ヲ出スマテハ充分証ヲ為スヘシ然シ裁判言渡ニ於テ損失償金ヨリハ罰金高五十フランクニ至ラサル輕罪ノ場合耳ミ

第五十五條　前ニ記列シタル格法ヲ具備シタル調書ノ詐偽ノ陳述マテ充分証ヲ為サス且ツ信用ノ為サヽルモノハ治罪法第百五十四條ヲ以テ証実処断スヘシ

第五十六條　調書ニ對シテ詐偽タルヿヲ告白セント欲スル犯人ハ書面ヲ以テ自ラ出ルカ

又ハ公証人ノ証書ニ因テ設ケタル代人ヲ以テ呼出状ニ載示ノ開席前ニ裁判所ノ書記局ニ陳述ヲ為スヘシ

裁判所ノ書記役ニテ此陳述書ヲ請取ルヘシ

是書ニハ本人又ハ代人調印セサルヘカラス若シ調印スルヲ知ラサル者ハ其旨ヲ記載スヘシ

開席ノ期日ニハ裁判所ニ於テ此陳述書ヲ附与シ且少クモ八日多クモ十五日ノ期限ヲ定ム可シ此期限内ニ犯人ハ詐偽タルヲ誓述スルノ方法ヲ具備シ書記署ニ差出シ且吟味ノ用ニ足ルヘキ証人ノ姓名身分及住所ヲモ記シ差出スヘシ

右期限ノ終リニ至ラハ更ニ裁判所ヨリ呼出ナクトモ出席スヘシ

若シ調書ヲ取消スヘキ事実アル者ハ詐偽タルヲ誓述ヲ受理シ法律ニ従テ処断ス可シ

詐偽タルヲ誓述反對シタル場合ニ於テハ犯人ノ誓述ヲ受理セサル旨ヲ告示シ且裁判ニ取掛ルヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第五十七條　欠席裁判ノ言渡ヲ受タル犯人ハ已シノ為シメル故障ニ付開席ニ出席スル為メ法律ニ於テ許シタル期限内ニハ詐偽ノ陳述ヲ為ス願書ヲ出スヿヲ得ヘシ　山林第百八十条見合

第五十八條　若シ二人以上ノ犯人ニ管シタル調書ニ對シテハ犯人ノ内一人又ハ二人以上ノ者ヨリ詐偽ノ陳述ヲ為サヽルモノアル片ハ之レカ為メニ調書ハ信実ノ効ヲ為スヘシ若シ詐偽ノ陳述ニ因リ其事件物件ノ犯人ニ關スル片ハ是例ニ非ス

第五十九條　軽罪俸理詐告中若シ犯人ヨリ所有ノ権又ハ其他ノ物権アルヿニ付申述シタル片ハ其本件ノ訴ヲ受タル裁判所ニ於テ此偶起ノ件ヲ処断スヘシ

「又キセプシヨン」ヂユイレエル「被告人ヨリ反訴シタル」事件ヲ云フハ所有ノ証券ヲ所持スルカ或ハ所有ニ均シキ証アル仮有権等ニ付原由アレハ受理セラレ又若シ所持ノ証券又ハ確述シタル事柄ノ其筋ノ裁判所ニ於テ見留メ其訴ノ本

源タル事柄ニ付金ノ軽罪ノ本質ノ取消スヘキ件ハ受理スヘシ

罰償金ノ処断ニ至リ裁判ニ於テ短少ノ期限ヲ定ムヘシ此期限内ニ本件ヨリ前ニ判スヘキ事件ヲ訴ヘ出タル一方ノ者ハ其諍事ニ付掛ノ裁判官ノ姓名ヲ聞キ且出訴ノ旨意ヲ弁述為スヘシ然シ罪ノ言渡ヲ為シタル場合ニ於テハ入牢ヲ命シ置キ執行ヲ延引スヘシ又罰金追徴償金等ハ判理結極ニ至リ裁判所ヨリ指令出ルマテハ「ケースデポー」且「コンシニアシヨン」積金預リ置

第六十條　奥猟監督ノ任ヲ受タル行政ノ官吏ハ行政ノ名ヲ以テ裁判ヲ控訴スルヿヲ得且控訴裁判所ノ審決及終決裁判ニ對シテ訴ルヿヲ得ヘシ然シ格別ノ允可ヲ得スシテ已レノ控訴ヲ放棄スルヿヲ得ス

第六十一條　裁判及控訴又ハ上告ノ審決ニ對シ訴フルヿニ付行政及其官吏ニ任シタル権ハ換職ニ委任シタル権利ト相関渉スルヿ無シ亦タ仮令行政或ハ其官吏ニ於テ裁判及審

決ニ服心シタル場合ニ検職ノ行フ権利トモ
相管スルヿ無カルヘシ

第六十二條　奥猟ニ係ル軽罪ノ償ヲ求ル訴訟
ハ其犯人ヲ調書ニ記シテ犯事ヲ証シタル時
ハ其日ヨリ一月ヲ以テ出訴期限トシ期満得
免ノ権ヲ得可ク犯人ヲ調書ニ記シテ其犯事
ヲ證セザル場合ニ於テハ犯罪ノ日ヨリ三月
ヲ以テ出訴期限トシ期満得免ノ権ヲ得可シ

第六十三條　奥猟ノ吏員或ハ行政ノ奥猟監守
人其職務ニ居テ犯シタル軽罪及過失ニハ前
条ノ規則ヲ設テ行フヘカラス故ニ是等ノ吏
員ノ犯シタルヿ及連累等ノ修理出訴期限ハ
治罪法ニ定タル期限ト同シ

第六十四條　軽罪ノ訴、欠席裁判、故障ヲ述ルヿ、
裁判、控訴及上告ニ付治罪法ニ定タル規則ハ
此律ニ定タル軽罪ノ訴ニ付キ該テ行ハルヘ
シト雖モ此第五卷ヨリ生シタル改変ニ至テ
ハ是ノ例ニアラス

第二款

奥猟借受人及平民ノ名前且其有益ニ付為シタル訴訟

第六十五條　奥猟借受人奥猟免状ヲ得タル人及河頭所有主ニ損害ヲ掛タル軽罪ハ各自ノ監守人ニテ確証セラルヘシ　右監守人ハ平民ノ森林監守人同様ニ取扱ハルヘシ

第六十六條　右等ノ監守人ノ作リタル調書ハ訴偽ノ陳述ヲ為ス迄ハ信実ヲ証スヘシ　山林律第百八十八条

第六十七條　惣テ出訴及ヒ願等ノ事ハ被益者ヲ名前ニテ為スヘシ

第六十八條　此律ノ第三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、及四十七条ノ第一節、第四十九、五十二、五十九、六十二、及六十四条ニ包含スル所ノ規則ハ平民及奥猟借受人ノ有益ニ損失ヲ掛タル軽罪ニ付彼等ノ名前ニテ為シタル訴ニ当テ行フヲ得ヘシ

○第六卷　處刑及罪ノ言渡

第六十九條　再犯ノ場合ニ於テハ其罰ヲ陪層スヘシ

奥猟軽罪ヲ犯シ裁判ノ言渡ヲ受ケシヨリ十二ケ月内ニ之ヲ犯ストキハ再犯トスヘシ

第七十條　夜中ニ奥猟軽罪ヲ犯ス者ハ惣テ陪課スヘシ

第七十一條　凡ソ損失償金ハ裁判ニ於テ言渡ヲ為シ尋常ノ罰金ヨリ少カルヘカラス

第七十二條　此律ニ因テ定メタル何レノ場合ニ於テ若シ生シタル損害償金高二十五フランクヲ越ヘス且其事情軽ロシト認ムルトキハ裁判所ニ於テ入獄ハ六日以下罰金ハ十六フランク以下ニ軽減スルヲ得ヘシ又此等ノ罰ヲ別ニ言渡スヲ得ヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ註違ノ罰ヨリ軽減スルヲ得ヘカラス

第七十三條　奥猟借受人奥猟免状ヲ得タル人及水岸所有主ニ損害ヲ掛タル軽罪ノ場合ニハ追徴及損失償金ハ此等ノ人ニ属スヘシ然

レハ此等ノ人自ラ犯シタル軽罪一般ノ有益ニ管スル件ハ此等ノ償金ハ政府ノ有益ニ属スヘシ且惣テ罰金及没収物等モ亦政府ノ有益ニ属スヘシ（山林律第二百〇四条）

第七十四條　聟、父母、後見人、奥猟借受人、免状得タル人並ニ総テ所有主、家長、及コムメッタシ（自己ノ代理ヲ頼ム人）等ハ彼等ノ婦、幼者、後見ヲ受タル幼者、舟子、仲間及惣テ附属ノ者ノ犯シタル奥猟軽罪ニ就テハ其償ヲ為スノ責ヲ受ヘシ但シ他人ニ對シテ申告スヘキ権利アル件ハ是例ニ非ラス

此償ノ義務ハ民法千三百八十四条ニ従テ処定セラルヘシ

〇第七巻　裁判執行

第一款

〇行政或ハ検職ノ訴告ニ因リ為シタル裁判執行

第七十五條　奥猟警察ノ任タル行政ノ願又ハ検職ノ訴告ニ因リ為シタル裁判ハ原被双方

ノ姓名及裁判ノ大意ヲ記載シタル抄出書ヲ以テ送達セラルヘシ

此裁判送達ヨリ故障ヲ述ル丁及欠席裁判ニ付控訴ノ期限ヲ定ムヘシ

第七十六條　奠獵輕罪ノ罰金取立ハ惣テ錄事（ルスウエール）奠收（ダシヒキストルマシテ）稅役ニ任セラルヘシ

右錄事奠收稅役ハ奠獵輕罪ニ付為シタル裁判ヨリ生シタル追徵、雜費及損失償金取立ヲモ任セラルヘシ

第七十七條　追徵罰金損失償金及雜費ニ管スル裁判ハ項錮ノ方法ヲ用ユル丁ヲ得ヘシ然シ此執行ハ犯人ニ一ト通申シ聞カシタル上五日ノ後ニ為スヘシ

右ニ付検職ハ錄事奠收稅役ノ願ニ因リ裁判所ノ指令ヲ執行スルノ任ヲ受タル官兵ノ役員ニ執行ヲ請求スヘシ

第七十八條　罰金償金及其他ノ罪ノ言渡ニ就キ項錮ノ言渡ヲ受タル者ハ其言渡ノ金高ヲ掛フタルカ又ハ錄事奠收稅役ノ承引タル保証物ヲ具備シタルカ又ハ郡ノ裁判所ニ於テ

犯人ノ所論ニ付理宜アリト公示スル迄ハ項
錮ヲ受クヘシ（山林律第二百十二条）

第七十九條　然レトモ治罪法第四百二十条ニ定メル方法ニ由リ自ラ掛立能ハサル次第ヲ弁述スル犯人ハ罰金及其他ノ金ノ言渡高十五「フランク」ヨリ「フランク」ヲ超ヘサル件ハ十五日間ノ禁獄（テンゴクヨウ）ヲ受メル後チ免セラルヘシ

罰金及其他ノ金ノ言渡高十五「フランク」ヨリ五十「フランク」ニ至ル件ハ禁獄一ヶ月ニシテ免サルヘシ

仮令罰金其他罪ノ言渡ニヨリ金高容ムト雖モ禁獄二ヶ月ヨリ多カルヘカラス

第八十條　何レノ場合ニ於テモ人ヲ禁錮スルノ方法トシテ施行スル囚獄ノ刑ハ法律ノ定ムル所ニ循テ犯人ニ言渡シタル禁錮ノ刑ト相關スルヿナシ

奥獵借受人及平民ノ有益ニ付為シタル裁判執行

第八十一條　奥獵借受免状ヲ得タル人及平民ノ有益ニ損失ヲ掛タル軽罪修理ニ就キ罪ノ

言渡ヲ包含スル裁判ハ奥獨ノ監督ヲ仕セラレタル行政ノ訴告ニ因リ為シタル裁判ト同シ格ニ從ヒ其借受人免狀用ヰタル人及ヒ平民ノ願ニ因リ裁判言渡ヲ送達シ且執行セラルヘシ

右裁判ニ因リ言渡シタル罰金ハ錄事兼収税役ニテ取立ヘシ

第八十二條　訴告及平民ノ有益ニ損失ヲ掛タルニ因リ項錮ノ方法ヲ用ヒ留置タル犯人ノ放免ハ犯人ノ保証物ノ價スル所又ハ拂立ノ方法ニ付對席吟味ニテ裁判サレタル上ニ非レハ行フヿヲ得ス

○第八卷　総則

第八十三條　惣テ奥獨ニ管シタル事ニ付此法律ニ因テ規定シタル事柄ノ為ニ時ニ出シタル法律詔令決議及惣テノ規則ハ廢棄ス

然レトモ此法律布告前ニ受得タル權利ニ付爭訟ニ及フトキハ從前ノ法律ニ因テ処断スヘシ

○板規則

第八十四條　第六第八第十条ニ記スル所ノ制禁及千六百六十九年ノ詔令第三十一条第五条ニ記定シタル日出ヨリ日没マテノ時刻ヨリ他ノ時刻ニ漁スルヿノ制禁ハ此律ノ第二十六条ニ由リ流水ニ於テ漁スル時節及漁具ニ制禁スルヿヲ規定ノ布告マテ施行スヘシ

然ト魚モ千六百六十九年ノ詔令ニ因リ記載シタル前數条ニ違反シタル件ハ此律ノ規則ニ因リ罰スヘシ且此律布告ノ日ヨリ後犯シタル惣テノ軽罪モ同様ナリ

○千八百六十五年第五月三十一日及第六月八日決定ノ奥獵律

第一条　州會議員ノ見込ニ由リ國議院ニテ決議ノ上為タル詔令ニ於テ左ノ件々ヲ極定ス可シ

第一ニ　諸奥ノ繁殖ノ為ニ終年間奥獵悉皆制禁ス可キ河川、堀割及流水ノ部分

第二ニ　調査上ニテ諸奥ノ自由ニ通行シ得セシムル為ニ水樋ニ「エセル魚ノ通路為」ニ水樋ノ下部ヲ開キ設タル格子ヲ云フ」ヲ構ヘ設ケ得可キ河川、堀

割及流水ノ部分

第二条　終年間ノ漁禁ハ連年五年間ヨリ多カラス而テ此制禁ハ再ヒ改置セラル可シ

第三條　前条ノ施行ニ因テ漁猟ノ権ヲ取上ラレタル河岸所有主ハ其償額ヲ得ル ノ権ヲ持ス可シ其償額ハ千八百零七年第九月十六日決定ノ律ニ従ヒ鑒定人調査ノ上州會議員ニテ償金計算セラル可シ

当時存在スル水堰ニ於テ「エセル」ヲ構ヘ設ケル就テノ償額ハ前條ノ格法ニ従ヒ勘定立テル可シ

第四条　千八百六十六年第初月初日角来海軍宰相農業兼商法宰相及工部宰相ノ見込ニ因テ為メル詔令ハ川漁ト海ニ流ヲ及ボシタル河、川、堀割ノ中ニ於テノ海漁トハ殆ント同方法ニ規定サル可シ

第一ニ　諸魚ノ魚猟全ク制禁ノ時限ノ事

第二ニ　何寸何分以上ニ非レハ漁シ取ル可カラサル魚ノ寸法ノ事

第五條　千八百二十九年第四月五日決定ノ法

律第二十九条ノ施行ハ來年獵制禁ノ時ニ
当リ各州内ニ於テ何鳥ト雖モ賣買シ持扱
シ或ハ輸出輸入スルヿ厳禁タリ
此規則ハ前律第三十条ニ記載シタル池或
ハ溜リニテ漁シ取リタル鳥類ニハ当ラ行
フ可カラス
第六條　鳥獵制禁中ト雖モ生殖スル為ノ鳥類
ハ漁シ且運輸スルノ權ヲ鳥獵ノ行政附与
スルヿヲ得可シ
第七條　此律ノ第一条及第五條ノ第一節ノ規
則ニ違犯シタル片ハ千八百二十九年第四
月十五日決定ノ法律第二十七条ニ定メタ
ル罰ニ処ス可シ而テ其他ノ鳥類ハ前律第
四十二条ニ因テ記シタル格法ニ從ヒ没収
ノ上直ニ賣拂フ可シ
尤ノ場合ニ於テハ罰金ハ倍加シ且犯人ハ
十日以上一ケ月ノ入獄ヲ言渡ス可シ
第壱ニ　千八百二十九年第四月十五日ノ
法律第六十九条及第七十条ニ因テ定メタ
ル規則ヲ犯シタル時

第二、落醉セシメ或ハ毒死セシメタル魚ト視定タル時

第三、舟舸或ハ馬車或ハ運輸ニ使用スル牛馬等ニテ魚類ヲ運漕シタル時

魚類ノ捜索ハ魚猟制禁ノ時ニ当テ住所旅亭食肆及市場等ニ於テ為スヲ可シ

第八条　魚網及魚類ノ運送ニ管シタル規則ハ魚子及「アルワン」一種ニ当テ行フヲ得可シ

第九条　魚網ノ検印ニ管シタル千八百二十九年第四月十五日決定ノ法律第三十二条ハ削除セリ

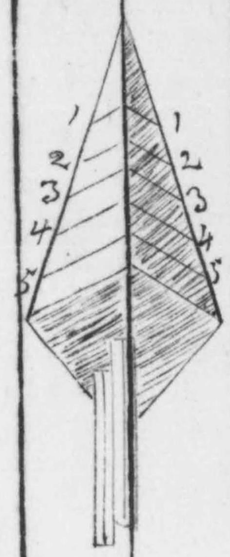
詔令ハ千八百二十九年第四月十五日決定ノ法律第二十九條ノ施行ニ因テ魚ノ各種ノ魚猟ノ為ニ許ヲ受タル魚網ノ目ノ寸法ヲ改ムル方法ヲ設定スヲ可シ

第十条　魚猟及魚類ノ賣買運漕輸出及輸入等ニ管係シタル犯罪ハ税関ノ役員間税及「オクトロワー」田舎ヨリ市場ニ輸入スル飲料類ヲ云ノ役員又ハ千八百二十九年第四月十五日決定ノ法

律及千八百五十二年第初月九日ノ詔令ニ
因テ權ヲ任セラレタル役員ヲ吟味探索
シ且証実ス可シ
詔令ハ軽罪証実ノ主任タル調書ヲ作記ス
ル人許容ス可キ手數料ヲ極定ス此手數料
ハ罰金ノ高ヨリ前以テ引去ラル可ス
第十一條　軽罪違警罪ノ訴訟及此律ニ違犯ニ
就テノ裁判ノ執行ハ千八百二十九年第四
月十五日決定ノ律及千八百五十二年第初
月九日ノ詔令ニ從ヒ行フ可シ

第十二条　從来ノ律則ノ此律ニ反スルモノハ
廢棄セリ

〇奥綱ノ目ニ付規定シタル千八百六十五
年第八月二十二日及第九月二十二日ノ
詔令
第一条　綱目ノ廣サ寸法ノ改ハ左ノ図ノ如ク
木製ノ四面ニ數字ヲ以テ度ヲ附シタル量
器ヲ用ヒテ量ル可シ



右量器ハ政府ニテ製造シ且檢印サル可シ
而テ其定例ト為ス可キ量器ノ一ヲ各民吏
裁判所ノ書記署ニ備ヘ置カル可シ

第二条　凡ソ網目ヲ量ルニハ網目大小ノ順序
ニ拘ハラス差別ナク量ル可シ

○千八百六十八年第初月二十五日及第二
月二十七日ノ詔令

第一条　魚類ノ生殖ノ為ニ禁止ス可キ魚猟ノ
時限ハ左ノ如ク極定ス可シ

第一ニ　第十月二十日ヨリ第初月三十日迄
鮭鱒及「シムブルテウシワリユー」鱒ノ漁シ
制禁ス

第二ニ　第四月十五日ヨリ第六月十五日迄
他ノ総テノ魚類及川海老ノ魚猟ヲ禁止ス
「ツムブルコムマン」魚名鰻及「ラムブロワー」鯰ノ
類モ同ク禁ス然レモ河水及潮水トニ交ク
住ム所ノ他ノ魚類ハ是例ニ非ス

前節ニ記シタル制禁ハ魚獵ノ総テノ方法
及同ク浮標付タル釣魚ニモ当テ行フ可シ
第二条　縣令ハ毎歳過分ニ生殖スル魚種ヲ保
有為スニ若制禁スルヿ必要ナルトキハ前述
シタル其時限ノ孰レノ中ニカ大議事ト商
議ノ上格別ノ権断ニ因テ例外ニ制禁スル
ヿヲ得可シ
件ノ権断ハ農業商法宰相及工部宰相ノ許
諾ニ在リ
第三條　魚獵ノ制禁ノ期毎ニ一週間前廣ニ其
初終ノ期日ヲ能ク知ラシムル為ニ諸邑内
ニ公告ス可シ
第四條　或ハ魚獵禁制ノ時ニ当テ池或ハ溜リ
ニ於テ漁シ取リタル魚類ヲ持運ヒ或ハ
レヲ賣買スル時ハ一應其魚ノ来歴ヲ辨解
ス可シ
第五條　剥奪サレ且迫賣サレタル魚類ハ千八
百二十九年第四月十五日決定ノ法律ニ從
ヒ再ヒ賣物ニ出スヿヲ得ス
第六條　凡ソ魚獵ハ日ノ出ヨリ日没迄ノ限ト

シ許ス可シ

然レトモ川海老及鰻魚ノ漁ハ日没後及日ノ出前ト魚モ縣令ノ決断ニ因テ極定サレタル時刻ニ於テハ漁スルヿヲ得可シ右ノ決断ニ因テ同ク川海老ヲ取ル為ニ許サレタル漁具ノ常休及其目ノ寸法ヲ極定ス可シ

第七條　掟通ノ寸法ノ魚網ハ時刻ヲ厭ハス水中ニ設ケ置クヿヲ得然レトモ日ノ出ヨリ日没迄ノ時間ニ非サレハ拳網ニ或ハ張網スルヿヲ得ス

第八條　魚網ニ羅リ直チニ水中ニ放捨ス可キ魚及川海老等ニツキ極定シタル寸法ハ左ニ記列シタル魚ノ寸法ヨリ以下トス可シ

第一ニ長サ二十五「サンチメートル」凡ソ我八寸二分五厘ノ鮭及鰻

第二ニ長サ十四「サンチメートル」凡三寸六分二厘ノ鱒「オンブルシワリエー」魚名「オムフルユムモン」魚名鯉「ブロセ」魚名「バルボー」魚名「ブレーム」魚名「ハメニエー」魚名「ユーデ」魚名「アロンス」魚名魚付「ガ

ルドン魚「ロウト魚「ラムプロワー」鯰ノ名」類ノ

第三ニ長サ捨「サンチメートル」三寸「三分ノソル」魚名

「フリー」魚及「フシ」魚名

第四　長サハ「サンチメートル」二寸六分四厘ノ川

海老

右ニ記列シタル魚ノ寸法ハ総テ其目ヨリ

尾ノ生ヘロ迄ヲ量ル可シ川海老ノ寸法ハ

其目ヨリ末ヘ廣ハノ尾先マテヲ量ル可シ

前段ノ法則ハ浮標ヲ用ヒテ釣タル魚ニハ中

テ行フ可カラス

距離ヲ各ヽ置ク可シ

第十一條　魚網張設シタル中ハ毎週土曜日夕第

六字ヨリ月曜日朝第六字迄三十六字間ハ

其網ノ長サノ十分ノ一ヲ中程ニテ水底ヨ

リ少クトモ五十「サンチートル」凡ソ我カ一尺六寸五分

程引揚置ク可シ

第十二條　総テ曳網ハ制禁タリ尤ト虽トモ一八

ニテ使用シ得可キ撒網ハ是例ニ非ス

「ラセ」丸形ノ網或ハ「コシー」同上ノ類ハ同様禁ジス可シ

第十三条　左ノ條ニハ厳禁ス可シ

第一ニ曲江小堀等ニ魚類ヲ引入レ終ニ逃レ出得ス様ニ流水中ニ何様ノ器具ト魚モ建設ル事

第二ニ水樞（ユリヤーズバイ）水柵（ジヨツーナケヤー）自然ノ水落水門「タトル」ヨーテウエレン」輪ル筧ノ類ノ為ニ設ケル格子等ニ「ナスバニエー」及置（ヨツテ）等ノ漁具ヲ構ヘ附ル事

第九條　魚網「ビール」木ヲ抜ヲ以テ編ミ造タル漁「ナス」具及其他魚獵ニ使用スル具ハ水中ニ張設ケ漁シタル後其等ノ數罠ヲ量ル其寸法ハ左則ニ後フ可シ

第一ニ鮭ヲ取ル網目ノ寸法ハ少クモ四十「ミリメートル」九我一寸三ニ当ヲ云タル可シ

第二ニ鮭及川海老ヲ除クノ外大形ノ魚ヲ漁スル網目ノ寸法ハ少クモ二十七「ミリメートル」九ハ分ノ八モタル可シ

第三ニ「グージヨン」魚名「ロシ」魚名「ウエロン」魚名「アブレット」魚名等ノ小種ノ魚ヲ漁スル網目ノ方寸ハ十「ミリメートル」九ノ三分トス

網目ノ方寸定則ノ寸法ヨリ十分ノ一ノ差違マテハ黙許スルヿヲ得

第十條　惣シテ張網スルニハ流水ノ幅三分ノ二ヲ踰ユヘカラス

同岸或ハ向對シタル岸ニ於テ同時ニ數網ヲ張ル中ハ少クトモ其網ノ弘リノ三陪ノ

第三ニ浮標ヲ用ヒテ釣スルノ外他ノ漁具シハテ水樋水柵水落水門「クール」シエーテエジン」及「エヤセル」等ノ傍ニ於テ漁シ並ニ右等建設ノ場所ヨリ上或ハ下三十「メートル」九ノ九丈九尺以内ニ於テ漁スル事

第四ニ水中ニ修理或ハ造作スル「或ハ製造所ノ体時或ハ舟舸ノ通行閑ナル時等ニ当テ不時ニ水ヲ引落シタル川堀割流水ノ部分ニ於テ漁スル事

第十四條　泛舟ス可キ堀割及流水ノ魚獵ヲ買タル人奉價ノ額ヲ及流水堀割等ノ魚獵所有主ノ願出ニ因テ縣令ハ極メタル魚獵ノ時ニ於テ其場所ヲ取調ヘ後ニ上品ノ魚ヲ保有セン為ニ他ノ魚類ヲ取盡ント欲シテ水

業及例外ノ魚獵ヲ許スヿヲ得ヘシ

第十五條 「アンゼニヨール」師器械及「コンセイユ」ヂウサリユブリテー」市中ノ清潔人ノ健康ノ勸旨ニ因テ縣令權斷シテ左ノ如ク極定ス可シ

第一ニ流水ニ於テ麻ヲ晒スヿノ時限及ビ晒ル可ク魚類ニ妨ケサル樣ノ晒場ヲ撰ムノ事

第二ニ河流中ニ於テ製練或ハ製造所ヨリ流シタル汚物等ノ魚類ノ害ニナル可キ物ヲ取除ル方法ノ事

第十六條 千八百三十年第十一月十五日及千八百四十二年第二月二十八日ノ法令千八百六十三年第十月十九日及千八百六十六年第二月七日ノ詔令並ニ魚獵ニ就テ地方ノ総テノ規則等ハ削除セリ

然レトモ此法令ノ規則ハ「ラン」歐洲ノ大河ノ名及「ビダゾア」是班牙国ノ河ニシテ其源ヲ「ビレニヤ」山ニ在リニモ中テ行フ可カラス此両河ニハ別段法律及規則アリテ漁律ヲ成ス

商業會社法

千八百六十七年第六月廿四日同廿九日決定

第一篇　株式ニテ組立タル差金會社ノ事

第一條　差金會社ニ於テ資本金二十万「フラン」（大抵四萬円）ニ至ラサル者ハ之ヲ百「フラン」（大抵二十円）以上ノ株式札ニカカチ二十万「フラン」ニ過キタル者ハ之ヲ五百「フラン」（大抵百円）以上ノ株式札ニカツベシ

已ニ會社資本金ノ全額ヲ登記シ且各金主ヨリ登記シタル株式金高ノ四分一ヲ入金タルニ非ザレバ會社全ク組立チタルニ非ス

明治文庫

八額ノ登記及ニ四分一ノ入金アレハ支配人
ヨリ公証人ヲシテ布告狀ヲ作ラシメ布告狀
ニ左ノ二通ヲ添ヘ置クヘシ
入金ノ委細書一通
會社契約書一通
之レハ私ノ証書ナレハ二通ノ内一通ヲ
ヨリ布告狀ヲ作リタル公証人ニ非ス他ノ
公証人ヨリ契約書ヲ作リシ時ハ公正契
約書ノ副文一通ナリ
凡ソ契約ヲ私ニ為ス時ハ社員ノ数ニ關セス
証書ノ本文二通リヲ作ルヘシ一通ハ前節ニ
述ル如ク全額登記且四分一ノ入金ノ布告狀
ニ添ヘ置キ一通ハ商會ノ元會社ニ止メ置ク
ヘシ
第二條　四分一ノ入金アリシ上ハ株式札ヲ賣
買スルヲ得ヘシ
第三條　株式札其ノ半額ヲ入金シタル上ハ集
議ノ決定ヲ暦ニ持主札ト変スルヿハ會社組
立ノ規則中ニ記シアレハ之ヲ許スヘシ
集議決定ノ上株式札或ハ故ノ如ク名前札ノ

マヽ或ハ持主相ト変スト雖モ未タ半額ヲ入金セサル間ハ株式ノ登記本人ニテ株式ヲ賣譲リタル者又株式ヲ買受タル者双方共集議決定ノ日ヨリ二ヶ年間ハ株式入金ノ義務ヲ負フベシ

第四條　社員中金銭ニ非ザル品ヲ以テ持入物（ラボール）ヲ成ス人アリ或ハ一員ノ為メニ別段ノ利益ヲ與ヘントスル人アレバ先ツ最初ノ集會ニテ持入物ノ價ヲ論シ又別段利益ヲ與フルノ所以ヲ論ス第二ノ集會ニテ持入物ノ價且別段利益ヲ與フルヲ決定シ而シテ始メテ會社組立ヲタルト云ヘシ

其第二ノ集會ニテ右等ノ事件ヲ論決セントスル時ハ先ツ前會ニテ一ノ専理人ヲ任シ専理書ヲ板刻シ第二集會ノ五日前ニ之ヲ諸金主ノ望ニ應シ分與スヘシ集議ハ出席金主多數ノ説ヲ以テ決定トス総金主四分ノ一出席シ且出席人ハ會社資本金ノ四分一ニ當ツヘシ社員ノ中金銭ニ非サル持入物ヲナシ或ハ別段ノ利益ヲ請フ者ハ是等ノ事ヲ論決スル

集會ニ出席シ決定人數ニ加フル1ヲ得ス集會モシ方等ノ事ヲ決定セサレハ何人ニ對シテモ此社中ハ未タ立タサル者トナス又總ヒ已ニ集會決定セリト雖ト共計ニ付テノ訴訟ヲ起ス1ニハ物ヲナシ金錢ニ非サル持入物モシ總社員ノ共有スル物品ナレハ本條述ル処ノ持入物吟味ノ規則ヲ受ケザ

第五條　株式差金會社ニハ一ノ監督局ヲ置キ其局員ハ金主ノ内ヨリ撰擧シ三名ヨリ少カラス局員ハ會社組立ヲ未タ社業ヲ始メザル時総金主ノ集會ニテ之ヲ任スヘシ此局ハ會社ノ組立規則ニ定メタル時限ニ順ヒ再撰スヘシ但シ初年ノ監督局ハ一年ヲ過レハ必ス之ヲ再撰スヘシ

第六條　初年ノ監督局ハ委任ヲ受ケシ後先ツ本篇始メノ五條中ニ述ベタル規則ヲ會社ヲリ守リタルヤヲ吟味スヘシ

第七條　本篇第一條ヨリ第五條中ノ規則ヲ守ラズシテ組立タル株式差金會社ハ総テ外人ヨリ之ヲ無トナスベシ但シ社員ヨリ已レノ

為メニ之ヲ外人ハ五ツ以上ヲ得ス

第八條 前條ノ規則ニ述ル如ク會社消滅スル時ハ監督諸負ハ支配人ト共ニ會社中ニ對シ外人ニ對シ會社消滅ニ付テ生シタル損害ノ償ハシムル1アリ又金錢ニ代ヘル持入物ナシ或ハ別段ノ利益ヲ請ル人ハ會社セシ第四條ノ規則ヲ守ラス消滅スル時ハ當人モ亦タ前節ノ義務ヲ受ル1アリ

第九條 會社支配人ヨリ為シタル支配方一切ニ関スル1ハ監督諸負ニ於テ其過ヲ受ケズ尋常法律ニテ代人ノ規則ヲ定ムル如ク監督負ハ會社総負ノ代人ナレバ其代理ノ事務ヲ行フ為メ已レヨリ成シタル過チハ自カラ之ヲ償フベシ

第十條 監督員ノ會社ノ諸帳全様且ツ在金ヲ検査シ毎年大集會ノ時ニ当リ其年ノ総計上ニ示ス規則ナル1又ハ不当ノ1アレバ之ヲ去ル或ハ支配人ノ定メタル利益分配ニ不服スベキ処以アレハ之ヲ去ス為メニ一ノ調書ヲ作リ集會ハ持来ルベシ利益分配モシ総計

ナキ時或ハ総計ノ外ヨリ出デタル時ニ非ザレハ已ニ株主ヘ分配シタル上ハ此利益金ノ一部ヲ株主ヨリ取リ返スヿヲ得ス総計ヲ成サヾル時或ハ総計外ヨリ利益金ヲ分配シタル時タリ共分配ノ日ヨリ五年ヲ過レハ株主ニ對シ右ノ取リ返シ手続ヲ成スヿヲ得ス

但シ本法布告ノ節已ニ此ノ「プレスクリプション」ノ期限始マリ居且ツ旧法ニ依レハ猶ヲ五年余ノ時間残ルモノハ本法布告ノ日ヨリ五年ヲ以テ「プレスクリプション」ノ期限トス

第十一條　監督局ハ集議ヲ召會シ集議ノ説ヲ聞テ會社消滅ヲ云ツル權ヲ有ス

第十二條　集議前十五日ヨリ総テ株主ハ本會社ヘ到リ或ハ代人ヲ遣シテ會社ノ帳簿総計冊且監督局ノ調書ヲ傳知スルヿヲ得

第十三條　本法第一二三條ノ規則ニ反シ組立タル會社ノ株式札ヲ賣ル者ハ五百「フランク」〔大抵二千円〕ヨリ一万「フランク」〔大抵百円〕ヨリ料ヲ以テ罰スヘシ其外右ノ過料ヲ以テ罰スヘキ者ハ

監督ノ未ダ立タサル前ニ社業ヲ始ムル
支配人又ハ
集議ノ時キ説ノ多數ヲ得ンカ為メニ他人ノ
株式札ヲ假リテ己レ札ノ持主ト称シ真ノ
社員ニ非ルカ如キテ集議ニ加フル人但シ過料
ノ外別ニ此人ニ對シテ會社或ハ外人ヨリ
償金ヲ請フ事ヲ得ル是ナリ
右等ノ人ニ對シテハ別ニ十五日ヨリ六ヶ月
ノ入牢ヲ裁判所ヨリ言渡スヿアリ
第十四條　本法ノ第一二三條ノ規則ニ反シタ
ル價ニ或ハ作リ方ノ株式札又ハ第二條ニ所
スル如ク四分一ノ金高ヲ未タ會社ニ拂ハザ
ル株式札ヲ賣買スル者ハ五百「フランク」ヨリ
一万「フランク」ノ過料ヲ以テ罰スヘシ右等ノ
賣買ニ差加ワリ或ハ右等ノ株式札ノ價ヲ布
告スル者ハ同過料ヲ以テ罰スヘシ
第十五條　左ニ記スル処ノ人ハ刑法第四百五
條ノ刑ヲ以テ罰シ且紙ヲ「ユスクリー」（偽ヲ用
ヒ人ヲシテ金ヲ出サシメ其金ヲ窃取スル）罪犯
トナル可キ所行アレハ是ヲモ一々第四百五

條ニ順ヒ罰スヘシ

第一、株式ニ登記或ハ入金ヲ外人ヘ勸ンタメニ已レ登記入金ヲ偽ワリ又ハ未有ノ登記入金ヲ知リナガラ布告シ且其他ノ偽事ヲ世上ニ布告シタル者

第二、株式ノ登記入金ヲ偽ルタメニ已レ事実ヲ知リナカラ會社中ニ在サル人名ヲ布告シ此人ニ一ノ名義ヲ付テ會社ニ屬スレ如ク外人ヲシテ信セシメシ者

第三、支配人トシテ総計リ或サス或ハ偽リノ総計リ成シテ不当ノ利益ヲ立テ之ヲ株主ヘ分配シタル者

但シ監督諸負ハ支配人衆犯ノ過ヲ受ケズ

第十六條　第十三十四十五條ニ述ヘタル諸衆犯ニハ刑法第四百六十三條ノ（減殺方）ヲ用ヒ〜一ヲ許ス

第十七條　支配人或ハ監督諸負ニ對シ數人ノ株主原告トナリ或ハ被告トナリ一ノ訴訟ヲ成ス時ハ株主集合シ若シ資本金ニ十分ノ一ニ当ヒバ一名或ハ數名ノ代人ヲ任シ數人ノ名

代トシテ此訴訟ヲ取アツカハシム

但シ各株主ハ別ニ己ノ名ヲ以テ之ヲ訴訟スルヿヲ得ヘシ

第十八條　千八百五十六年六月十七日ノ法ヨリ以前ニ組立テ而シテ本法第十五條ノ規則ニ当ラサル會社ハ今ヨリ六ケ月ノ間ニ前ノ條々ニ順ヒ一ノ監督局ヲ設クベシ

若シ此ノ期限中ニ監督局ヲ立ザル時ハ総テ株主ハ會社ヲ消滅セシムルノ權利ヲ得可シ

第十九條　本法ノ布告以前ヨリ成リ来リタル株式差金會社ハ若シ彼レノ組立規則中ニテ政府ノ許可ヲ得テ無名會社ト変体スルヲ許ヒ本法第二篇ノ條々ニ順ヒ無名會社ト変スルヲ得ヘシ但シ會社ノ組立規則中ニテ変体ノ為メニ設クタル條々ニ反スル可カラス

第二十條　千八百五十六年六月十七日ノ法ヲ廃ス

第二篇　無名會社ノ事

第二十一條　今ヨリ以来無名會社ハ政府ノ許可ヲ受ケタル組立ヲ得ベシ

無名會社ハ社員ノ數ニ關セス私ノ證書ヲ以テ二通ヲ以テ契約スルヲ得ベシ

但シ此會社ハ商法第二十九、三十、三十二、三十三、三十四、三十六條ノ規則及ヒ本篇中ノ諸規則ニ從フベシ

第二十二條　無名會社ノ支配方ハ社員ノ内ヨリ一名或ハ數名ヲ撰ミ一時ノ代理人トナシ

或ハ給料ヲ與ヘ或ハ与ヘス且時ニ依リ免職
セシム
右ノ代理人モシ會社組立規則ニ許セバ代
理人ノ内ニテ頭取一名ヲ任シ或ハ會社外ノ
人ヲ此任ニ當ス、然ル時ハ外人頭取ノ所行ニ
付テハ代理人ヨリ會社ニ對シ彼ノ過ヲ受ク
ベシ
第二十三條　社員モシ七名ニ至ラザレバ會社
ヲ組立ツベカラス
第二十四條　無名會社ハ本法第一二三四條ノ
規則ヲ守ルベシ
但シ第一條ニ云フ所ノ支配人ノ布告ハ無名
會社ノ發起人ヨリ之ヲ作リ種々ノ証書ヲ付
屬シテ最初ノ集議ヘ差出シ其ノ真正ヲ糺マ
ヲ吟味セシム
第二十五條　會社資本金ノ登記及ヒ四分一ノ
入金ノ布告ヲ成セハ先ツ何事ニモ關セス一
ノ集議ヲ召會ス此集議ニテ初年ノ支配人ヲ
撰ミ且第三十二條ニ云フ所ノ專理人ヲモ任
スヘシ此支配人ハ六ヶ年以上ノ在職ヲ命

ズ可カラズ人會社組立規則ニ依ラハ六ヶ年後ニ至リ改メラ再撰スルヿヲ得ベシ

組立規則中ニテ已テニ支配人ヲ撰挙シテ集議ノ決定ヲ要セサルハ規則ノ定ムル所ニ依ルベシ然ル時ハ此支配人ハ三ヶ年以上ノ在職ヲ任ス可カラス

支配人ヲ集議ニテ委任シタル事ヲ集議ハ専理人ノ出席シタルヿヲ一ノ調書ニ書キ残ス此時ヨリ始メテ會社組立タルト為スベシ

第二十六條　各支配人何程ノ株式札ヲ所有スヘキヤハ組立規則ニテ定ム

支配向ノ過ヲハ仮令一人ノ支配人ヨリ成シタルヿトモ総支配人ノ株式札ヲ以テ之ヲ償フヘシ

支配人ノ株式札ハ名前分ニテ賣買ノ許サス且之レニ會社ノ一印ヲ安シ會社ノ金櫃ニ藏メ置クベシ

第二十七條　毎年組立規則ヨリ定メタル時ニ當リ少クトモ一度集議ヲ起スベシ

集議ノ時ハ或ハ自カラ出席ノ或ハ代人ヲ以テ出席スルカ集議ニ加ハル為ニハ各員何程ノ株式札ヲ有スベキヤ又何程ノ株式札ヲ有スル者ハ何人カノ説ヲ立ツルヤノ1ハ総テ組立規則ノ定メタル札数ニ従フベシ

但シ持入リ物ヲ吟味シ最初ノ支配人ヲ任シ

第二十四條ノ第二項ニ云フ如ク會社設起人ノ布告ヲ吟味スル為ニ百會シタル集議ニ於テハ凡ソ株式主ハ組立規則ニテ定メタル札数ヲ以テ多少ノ説ヲ立ツルト雖モ一人ニテ十説ヨリ以上ヲ立ツル能ハズ

第二十八條　凡ソ集議ニ於テハ説ノ多数ヲ以テ論決スベシ

其時一ノ出席帳ヲ作リ出席株主ノ名前住処且各主有スル所ノ株式札ノ数ヲ記スベシ

此出席帳ヲ集議中ニテ吟味シテ會社ノ元役所ニ備ヘ置キ望ミニ應シテ衆人ニ傳知セシム

第二十九條　次キノ二ケ條ニ述ル所ノ外凡ソ集議決論スル時ハ出席株主ノ数ヲ以テ會社資本金ノ四分ノ一ニ當スベシ

然レトモ集議中モシ此数ヲ得サレハ組立規則ニテ定メタル日限方法ニ依ヒ更ニ一集議ヲ召會スヘシ此第二ノ集議ニハ出席株主ノ数資本金ノ何分ニ當ルヲ論セス決議スルヿヲ得ベシ

第三十條 持入り物ヲ吟味シ最初ノ支配人ヲ任シ或ハ第二十四條第二項ニ云フ如ク會社發起人ノ布告ヲ吟味スル為ニ召會シタル集議ニ於テハ出席株主ノ数少クトモ資本金ノ半分ハ集議ニテ吟味スル所ノ持入り物ヲ取除ケ算用ス

若シ集議ニ於テ資本金年分ニ当ル程ノ株主出席セザレハ此集議ニ於テハ唯仮ノ決論ヲ成スヿヲ得ルノミ然ルトキハ新ニ一ノ集議ヲ召會ス第二ノ集議ヨリ一ヶ月以前ニ再度八日ヲ隔テ公告新聞命ニ準テ仮ノ決論ヲ請株主ヘ報知ス

第二ノ集議ニ於テハ出席人ノ数資本金五分ノ一ニ当リ且最初ノ集議ノ仮決論ノ承諾セハ之レヲ已成ノ決論トナス

第三十一條 組立規則ヲ改正シ或ハ會社興業

ノ期限ノ増減スル為メニ召會シタル集議ニ於テハ出席株主ノ数モシ資本金ノ半分ニ当セザレハ集議決論ヲナス能ハス

第三十二條　毎年ノ集議ニ於テ社員ノ内又ハ社外ノ人ヲ撰ミ一名或ハ数名ノ專理人ヲ任ス此專理人ハ翌年ノ集議ニ至リ會社ノ模様積書且支配人ヨリ作リタル出入算計ヲ一ノ調書ニ認メ之ヲ持出スヘシ

積書及ヒ出入算計ニ付テノ決論ハ專理人ノ調書ナキ内ハ之ヲ無効トス

若シ集議シテ任シタル專理人ナク或ハ任セラレタル專理人ノ内一名又数名出席スル能ハザ若クハ出席ヲ欲セサル内ハ集議ニ於テ直ニ專理人ヲ任スヘシ然ラサル内ハ都テ會社ニ関係スル人ハ會社所在ノ商法裁判所長官ニ願書ヲ以テ支配人ヲ呼出シテ專理人ヲ裁判長官ノ命ヲ以テ任スヘシ

第三十三條　毎年集議ノ前半年ノ間ニ專理人ヨリ會社一般ノ為メト思ハハ何時タリトモ會社ノ諸帳ヲ一見シテ社中ノ事業ヲ吟味スルノ

権利ヲ有スル且専理人ハ至急ノ場ニ臨ミ不時ニ集議ヲ召會スルヿヲ得ヘシ

第三十四條　凡ソ無名會社ニ於テハ毎年毎ニ出入金額ノ畧表ヲ作リ之ヲ専理人ニ指出スベシ

其外商法第九條ニ後ヒ一年毎ニ都テ會社ノ出入金額且動産不動産ヲ集記シテ一ノ総計誌ヲ作ルベシ

集議ノ四十日前マテ総計誌積書損益計誌ヲ専理人ヘ渡スベシ尤モ専理人ハ此集議ニ出席スベシ

第三十五條　総テ株主ハ集議召會十五日前マテニ會社元股所ニ至リ総計誌且株主名表ヲ一見シ且総計誌及ヒ調書ヲ略書シタル積書ヲ写ホリ受ル1ヲ得ヘシ

第三十六條　毎年利益金額ニ内少クトモ二十分ノ一ヲ除キ之ヲ集メテ會社ノ用意金ヲ作ルベシ

但シ右ノ用意金モシ會社資本金十分ノ一ニ至リハ毎年ノ除キ金ヲ止ム

第五十七條　會社モシ資本金四分ノ三ヲ失ナヘハ支配人ヨリ総株主ノ集議ヲ召會シテ會社ヲ消滅セシヤ否ヤ論決スヘシ而シテ此集議ノ決論ヲ公ニ布告スヘシ

支配人ヨリ集議ヲ召會セス或ハ召會シタル集議ニ於テ規則ニ從ヒ一ノ決論ヲ成シ能ハサル内ハ凡ソ會社ニ關係アル者ハ高法裁判所ニ至リ會社消滅ヲ願フヲ得ヘシ

第三十八條　社員モシ七名以下ニ減シテ一年ヲ過レハ凡ソ會社ニ關係アルモノハ會社消滅ヲ願フヲ得ヘシ

第三十九條　無名會社ハ第十七條ノ規則ヲ守ルヘシ

第四十條　凡ソ支配人ハ會社或ハ會社ノ代人ヨリノ賣買及ヒ諸引合ノ中ヘ加リ仮令自ラ之ヲナサスヽトモ會社ニ勤シ何樣ナル關係ヲモ取結ブヿ1ヲ禁ス

但シ右等ノ事件ノタメ別段集議ノ許可ヲ得レハ支配人モ之ヲナスヽシ然レトモハ毎年集議ニ至リ金社ト支配人トノ取引賣買ノ始末

リ集議ニ於テ兼知スベシ

第四十一條　第二十二、二十三、二十四、二十五條ノ規則リ守ラスシテ組立タル無名會社ハ都テ會社ニ關係アル人ヨリ無効ノ者ト見ルベシ

第四十二條　前條規則ニ云フ如ク會社及ヒ集議ノ決論セシ無効ト成リシヤハ発起人且其時ノ支配人ハ義務連帯シテ外人ニ對シテ過リ償フベシ又各株主ヨリ彼等ヲ責ムルノ權アリ

持入リ物或ハ別段ノ利益ヲ有スル人ヨリ第二十四條ニ從ハス持入リ物或ハ別段ノ利益ノ集議中ニテ吟味決論ヲ受ケザリシ者モ前項ニ云フ如ク義務連帯シテ其過リ負フベシ

第四十三條　專ノ方法ハ尋常代理人ノ規則ヲ以テ定ムベシ

第四十四條　會社支配人モシ本法ノ諸條ニ及シ或ハ偽造ノ利益分配ナトシテ支配方ニテ罪犯アル中ハ或ハ各人別々或ハ支配方総負ニテ義務連帯ニ時トシテハ會社ニ對シ時ト

レテハ外人ニ對シ一般法律ノ規則ニ從ヒ支配人ヨリ其過ケタル償フベシ

第四十五條　凡ソ無名會社ハ本法布告ノ節已ニ組立ヲ若クハ未タ組立テザルヲ論セス第十三十四十五十六條ノ諸規則ニ從カフヘシ

支配人ノ總計誌ニ作ラス或ハ詐偽ノ總計誌ヲ作リテ偽造ノ利益金ヲ分配シタル者ハ本法差金會社ノ篇中第十五條ノ第三ニ命カル刑ヲ以テ罰ス

又第十條未タ三項中ノ規則モ無名會社ニ當ツルヿシ

第四十六條　當時已ニ組立テタル無名會社ハ彼等興業ノ期限中ハ是迄ノ規則ニ從フヘシ但シ政府ノ許可ヲ得且名方法ニ依テ其組立規則ヲ改革スレハ本法ノ定メタル無名會社ト変スルヿヲ得ヘシ

第四十七條　義務ニ制限アル會社ハ會社ノ組立規則中ノ改革方法ニ從ヘハ本法ノ定メタル無名會社ト変スルヿヲ得ヘシ

商法第三十一、三十七、四十條、且千八百六十三年五月二十三日布告ノ義務制度ノ會社ノ法ヲ廢ス

第三卷

資本金增減會社規則

第四十八條　社員ヨリ漸々入金スル丁ニ分又ハ新ニ社員ヲ入ルヽ丁ニ分會社ノ資金ヲ增スヿ及ヒ社員ヨリ入レタル全額又ハ幾分ヲ受戾ス丁ニヨリ社ノ資金ヲ減スル丁ヲ社則中ニ約定スル丁ヲ得ヘシ

右ノ約定ヲ社則中ニ設ケタル會社ハ特ニ其社ノ種類ニヨリ適宜ニ定メタル一般ノ規則ニ依ハラス總テ左ノ條々ニ從フヘシ

第四十九條　會社ノ規則中ニ定ムル所ノ資金ハ二十万「フランク」ヨリ過越スヘカラザル資本金ハ年々ノ總集會ノ決議ニヨリ增加スルヿヲ得ヘシ但シ增加スル毎ニ其金額ハ二十万「フランク」ヨリ過越スヘカラス

第五十條　株式札ハ仮令ヘ資金十分乃マリタルト雖モ名前札ヘシ但シ毎札五十「フランク」ヨリ少カルヘカラス

右株式札ハ會社ノ組立確成シタル上ニアラサレハ賣買スルヿヲ得ヘカラス

株式札ヲ賣買スルトキハ會社ノ簿帳ニ姓名ノ書キ替ヘヲナサヽンヿヲ得ス會社ノ支配人及ヒ總集會ハ社則ニヨリ株札賣買ニ付姓名ノ書キ替ヘヲ拒ムノ權ヲ有スヘシ

第五十一條　第四十八條ニ許シタル差入金請ヲ成シニ付社則ニ於テ資金ノ何程ヨリ以下ハ減少スヘカラサル所ノ金高ヲ極定スヘシ

右減少スヘカラサル金高ハ資金ノ十分ノ一ヨリ下ルヘカラス

金社ハ資金高ノ十分ノ一集マリタル上ニア

ラサレハ其組立ヲ確成シタルモノトナスヘカラス

第五十二條　及シタル約定ヲナシタル丁ナキハ各社員自ラ至当ナリト思量セハ退社スル丁ヲ得ヘシ然レトモ前條首節ニ適当ノ場合ハ例外トスヘシ

総集會ハ前以テ社則変更ノタメ定メタル同議ノ多数ニ於テ社員ノ一人又ハ二人以上退社スル丁ニ付決定スルノ権ヲ有スヘキ旨ヲ社則中ニ約定スルヲ得ヘシ

社員ハ私意ニテ退社スルトモ又ハ総集會ノ決議ニ因テ社ヲ際ルトモ他ノ社員及社外ノ人ニ對シテ退社スルトキニ存シタル総テノ義務ヲ五年間負フヘシ

第五十三條　何レノ種類ノ會社ト雖モ裁判所ニ此ルトキハ支配人ニテ総社員ノ代人ヲ勤ムヘシ

第五十四條　社員中ノ人死去スルカ又ハ退社スルカ又ハ行権ノ禁ヲ受クルカ又ハ身代限ヲ受クルトモ會社ノ全然トヲ取續クヘシ

第四卷

會社約定書公告規則

第五十五條　都テ商法會社ヲ組立ツルトキハ其組立ヨリ一ヶ月内ニ私ノ證書ナレハ二通公正ノ證書ナレハ寫一通ヲ以テ會社組立証書ヲ其地ノ區裁判所及ヒ商法裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ

株式差金會社及無名會社組立ノ証書ニハ左ノ書類ヲ添ヘ出スヘシ

第一　會社ノ資本金高ノ登記及ヒ資本金四分ノ一差入レ済ヲ証スルトキハ公正ノ証書ノ写一通

第二　第四條及ヒ二十四條ニ定メタル場合ニ於テ総集會ニテ為シタル決議ノ証ヲタル寫一通

右ノ外無名會社ナルトキハ株主ノ住所身分姓名及ヒ各株主ノ持タル株數ヲ掲ケタル目錄ヲ會社組立証書ノ如ク証拠シタル目錄ヲ會社組立証書

ニ添ヘシ

第五十六條　會社組立証書ノ抄出書及ヒ其添書類モ又タ一ヶ月ノ期限内ニ官ノ告達ヲ梓行スルタメニ定リタル新聞紙中ニ出シ公告ヲナスヘシ

新聞紙ニ出板スヘキ文面ハ邑長ヨリ捺印ヲ得タル活板師ノ檢査シタル新聞紙ノ原書ニヨツテ正誤スヘシ且ツ其日附ヨリ三ヶ月ノ内ニ簿冊ニ登記スヘシ

前條及ヒ此條ニ記シタル格法ハ注意シテ其備スヘシ否ラサル内ハ有益ノ人ニ對シテ効ナカルヘシ然シ此等ノ格法ノ一ヲ遺漏スルトキハ社員ヨリ他人ニ對シテ之ヲ拒抗スル得ス

第五十七條　抄出書ニハ左ノ件々ヲ包含スヘシ

○株主又ハ金主ニアラサル社員ノ姓名

○會社ノ名前（社員中ノ一人又ハ二人ノ名ヲ以テ會社ノ名前ニ附タルヲ云フ）或ハ「デノミネーション」アレトモンアドプテー」アラサル社名ヲ云フ

○會社所在ノ地名

○會社ノタメニ商事ノ擔當シ且支配調印スル一ニ有効許ノ得タル社員ノ姓名

○會社ノ資金高及株主又ハ金主ヨリ集メタル金高又ハ集マルヘキ金高

○會社ノ開ケ始ムル期及ヒ閉終ノ期限並ニ区裁判所及ヒ商法裁判所ノ書記ニ書類ヲ差出シタル月日

第五十八條　抄出書ニハ又合名會社ナルカ尋常ノ差金會社ナルカ又ハ株式差金會社ヲ

ルカ無名會社ナルカ又ハ資本金增減會社ナルカヲ記スヘシ若シ無名會社ナルトキハ抄出書ニ資本書ニ社ノ資本金高及ヒ物件高並ニ利益金ノ内ヨリ毎年用意金トシテ除キ置クヘキ金高ノ記スヘシ

若シ資本金增減會社ナルトキハ抄出書ニ資本金ノ何程ヨリ以下ハ減少スヘカラサル所ノ限界ヲ記スヘシ

第五十九條　若シ會社數名ノ諸「クロンデス」中ニ設ケルトキハ第五十五條ニ記シタル記書差出ノ及ヒ第五十六條ニ記シタル公